

409

14

明日純



序

色は神秘なり薄黄金色のうらはしく東の空をほかせる神世の面影と
 見ゆ明ぼのう色は清新なり山も海も人家も皆夜の眠よりさめて雲霧のは
 生々せう爽氣の六合に充わたれるよ明ぼのう色は優麗なり紫の雲白
 銀の光輝はやがて紅玉の如き朝日を生出して颯と明ゆく其うらはしき塵の世
 の塵もとめざる心地こそすれ

此明ぼの「を」とつて新圖案の題名とせしは伊東氏なり氏は京都に於る染業の舊
 家にして其特有の美志津染を發展せん爲に垂に江戸棲模様新圖案を廣く江湖
 に募集し應募數百種に上りしが今回その中より特に優麗巧逸にして且つ實用
 に適するものを選び之を發刊して斯道を益し且は顧客の参考に供せんとし來
 つて序を余に囑す展て之を見らば流石に明ぼのう名に背かず神秘なるものあ
 り清新なるものあり優麗なるものありその他とりく趣致ありてまた斯道に
 一光彩を添ゆるに足るべし即ち數言を題して以て序となす

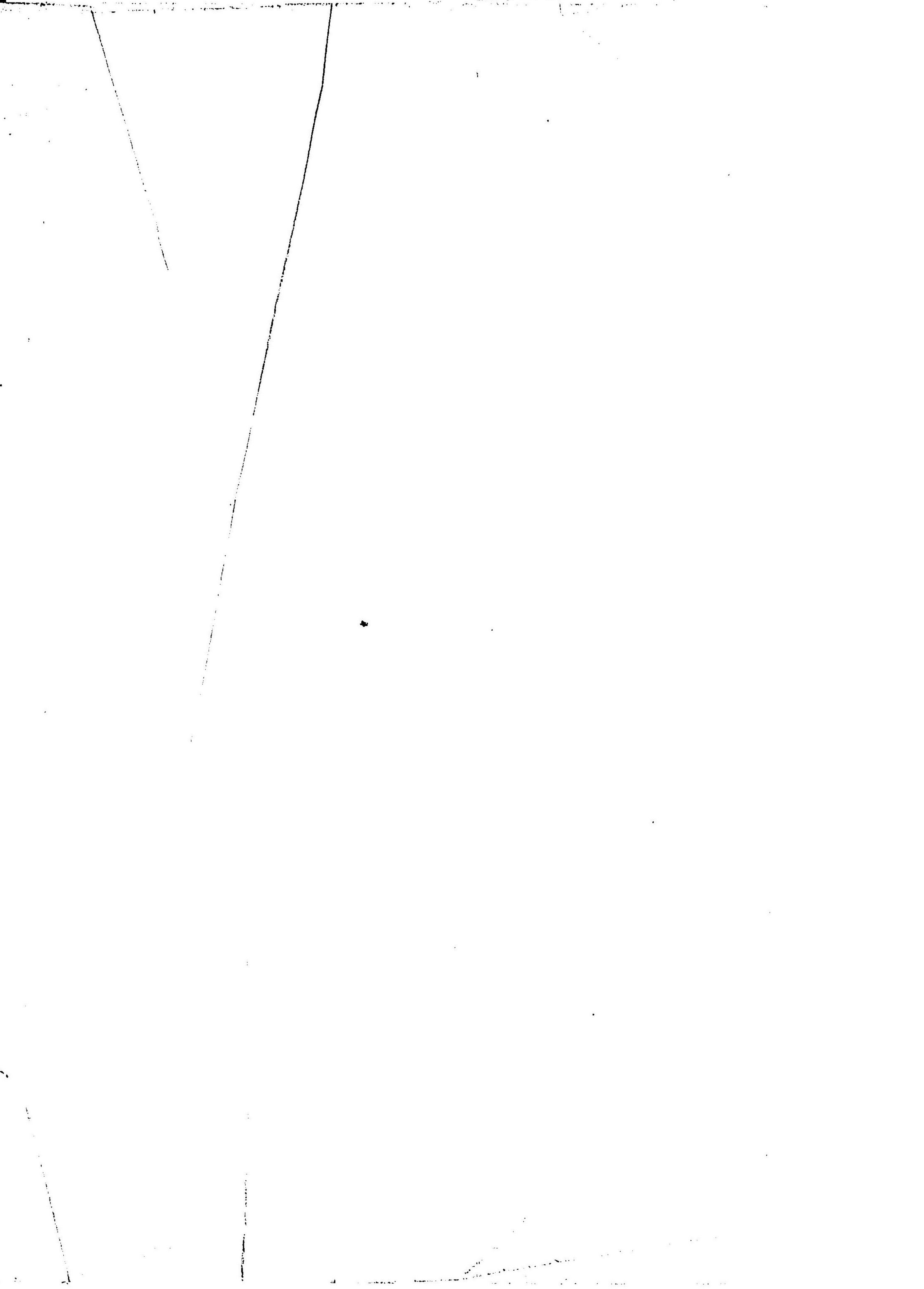
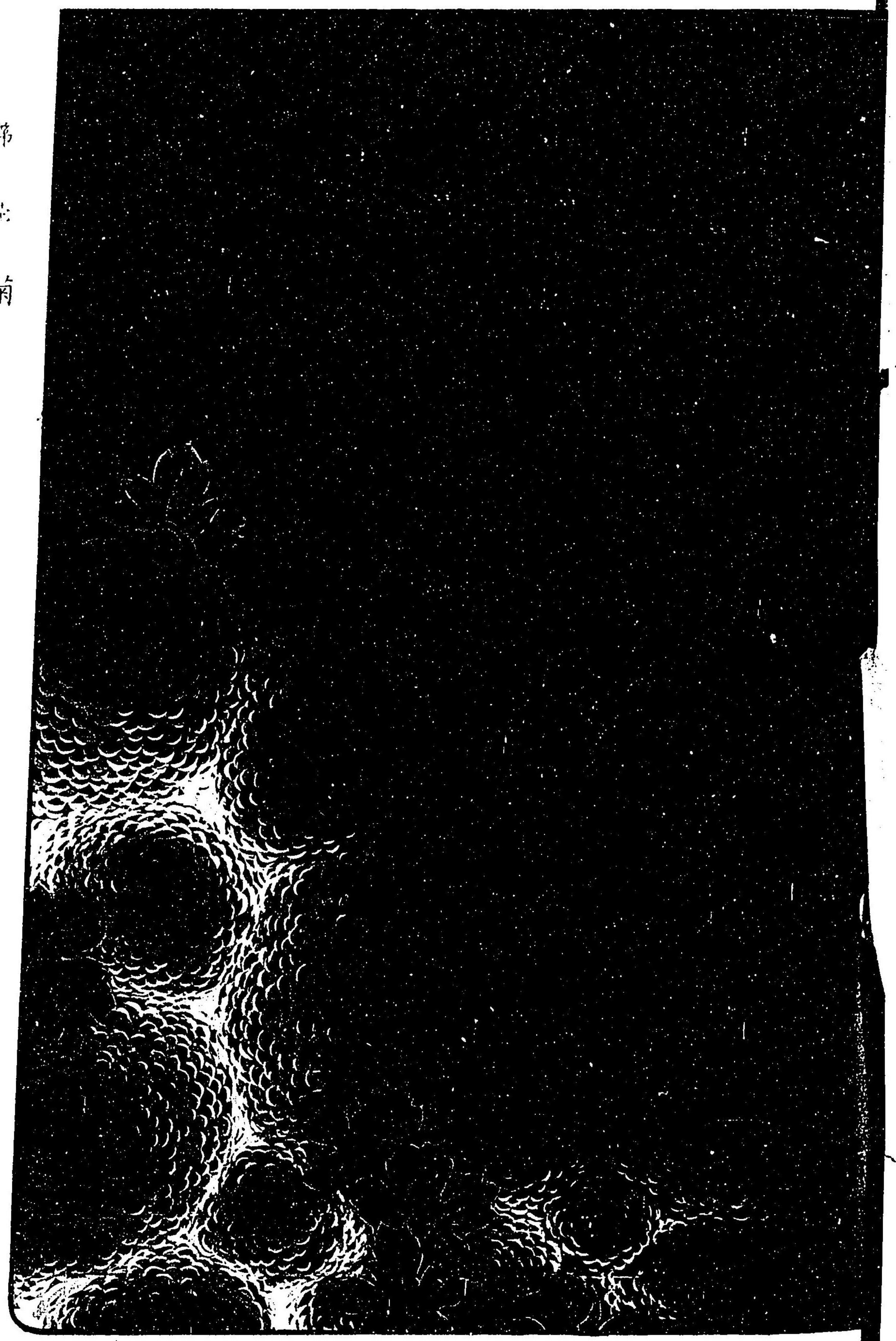
明治己酉八月中澣

照田天外

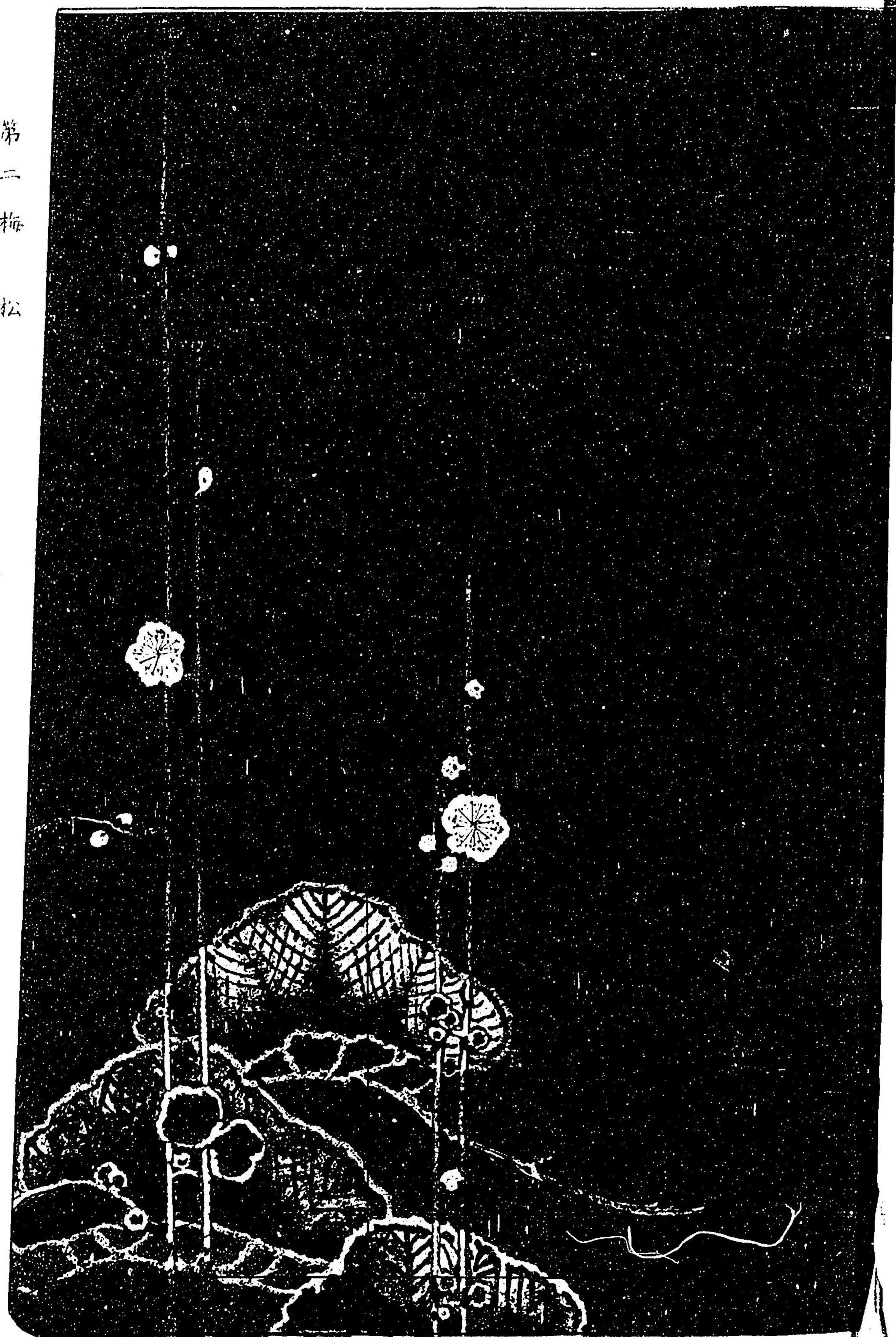
しるす



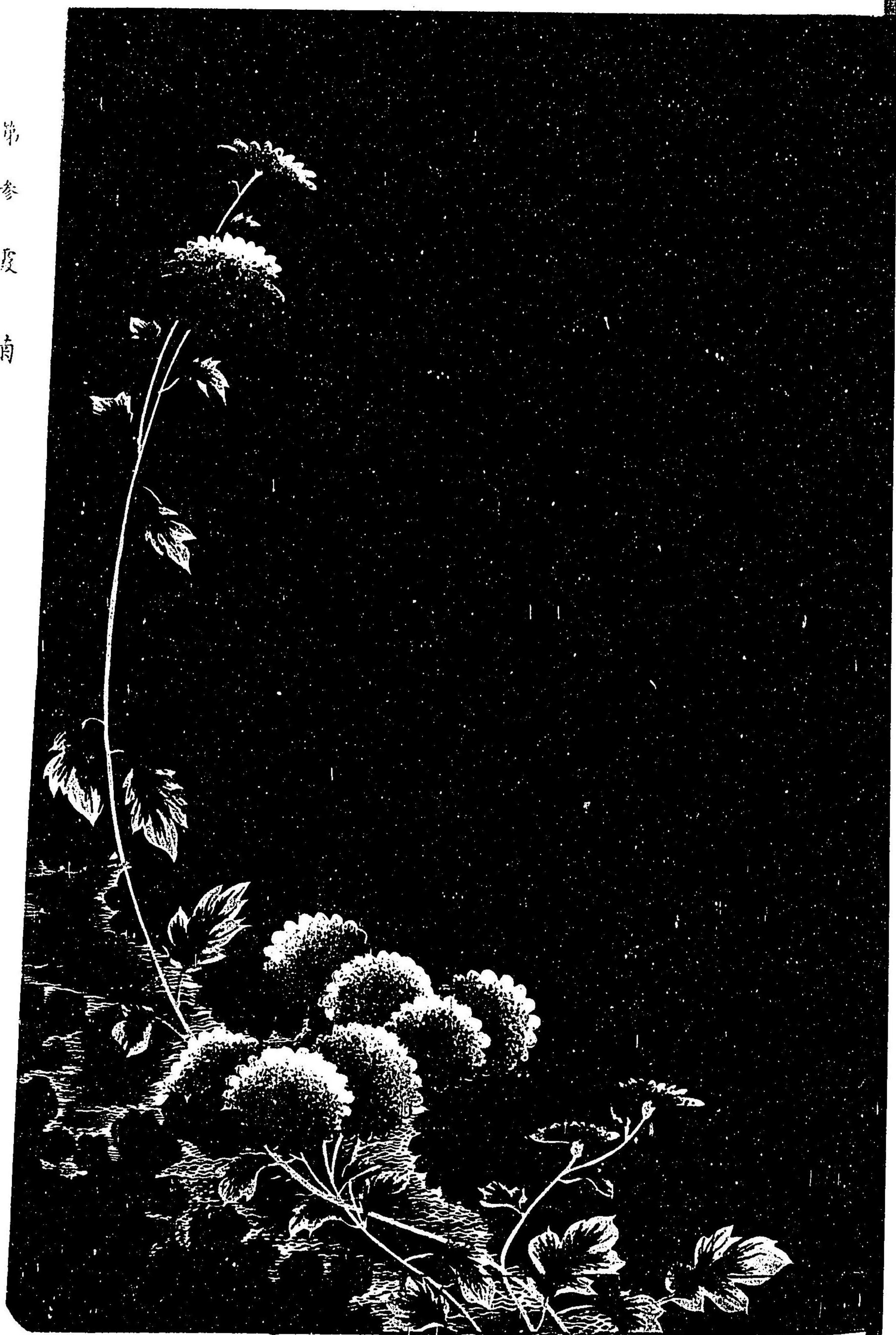
菊



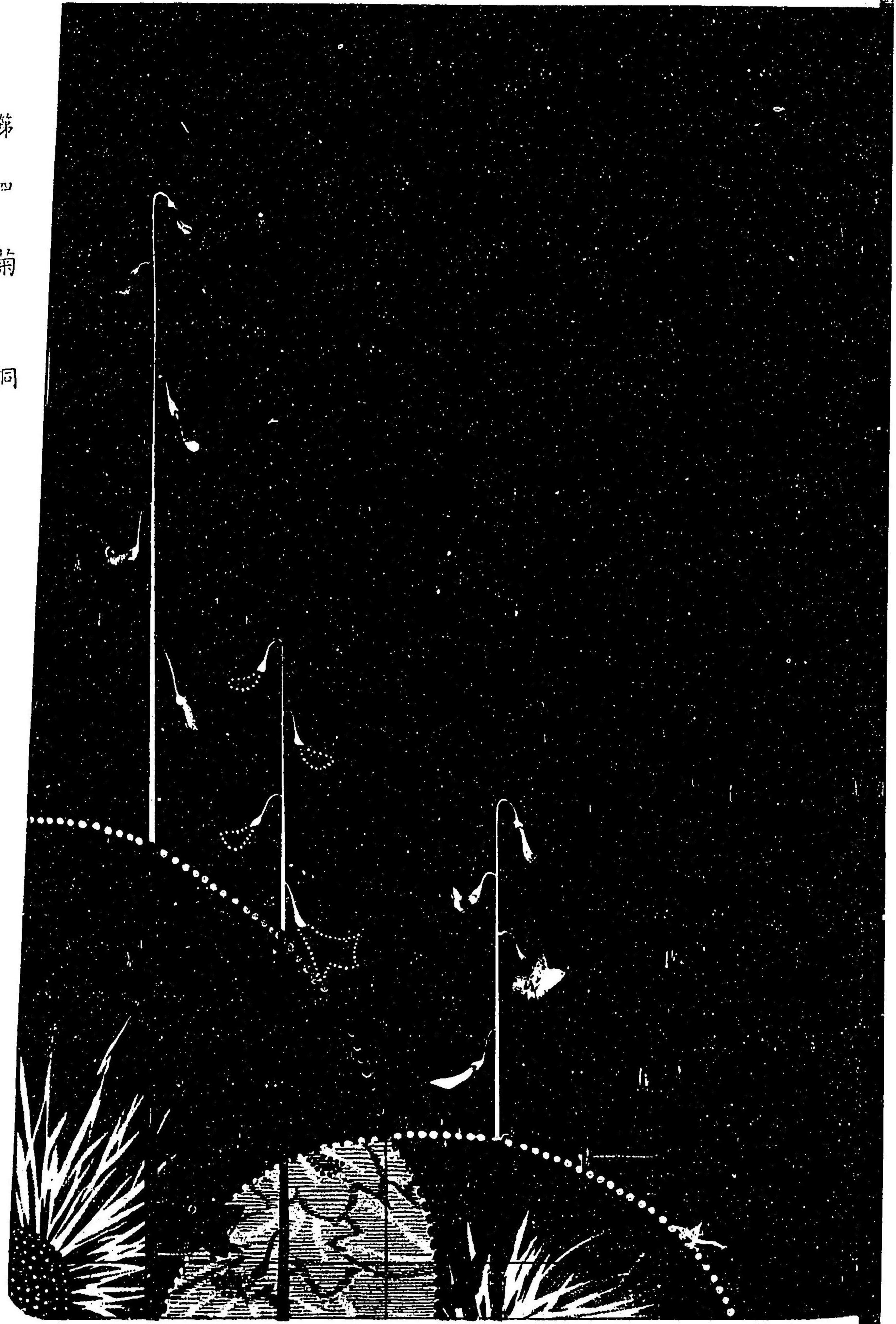
第二
梅
松



第
参
假
菊



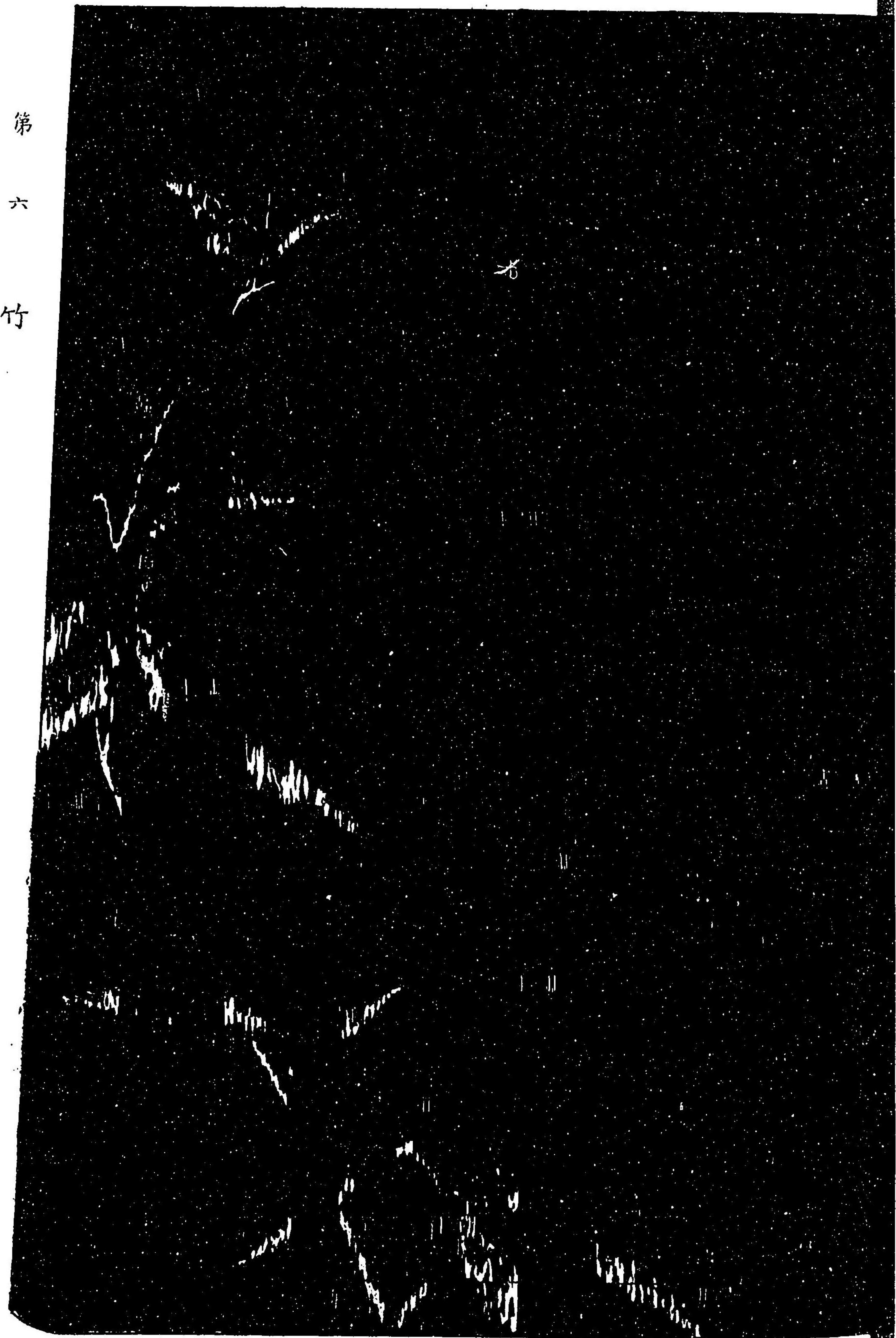
第
四
菊
桐



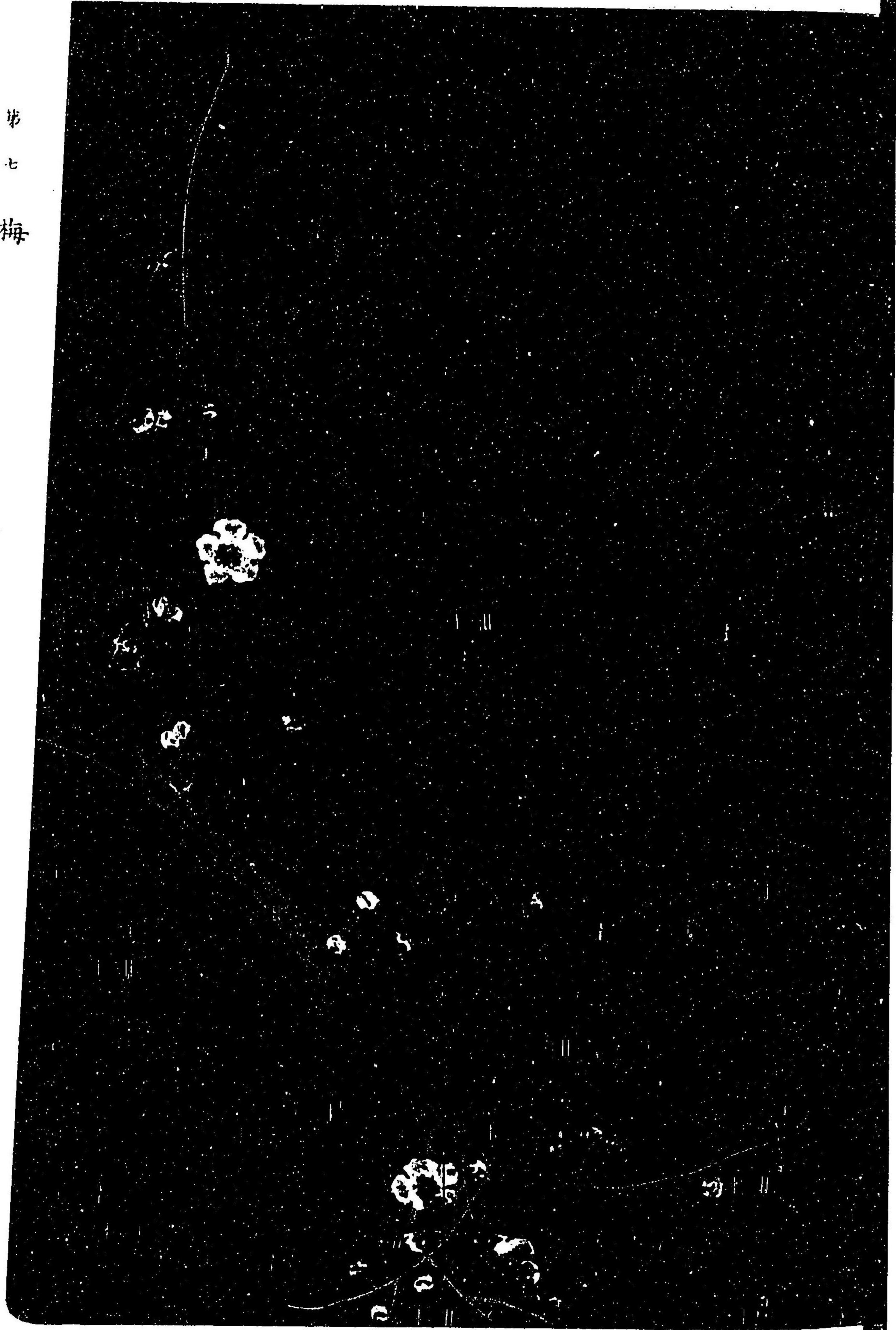
第
五
松



第
六
竹



第七
梅



第八 光琳水に水仙



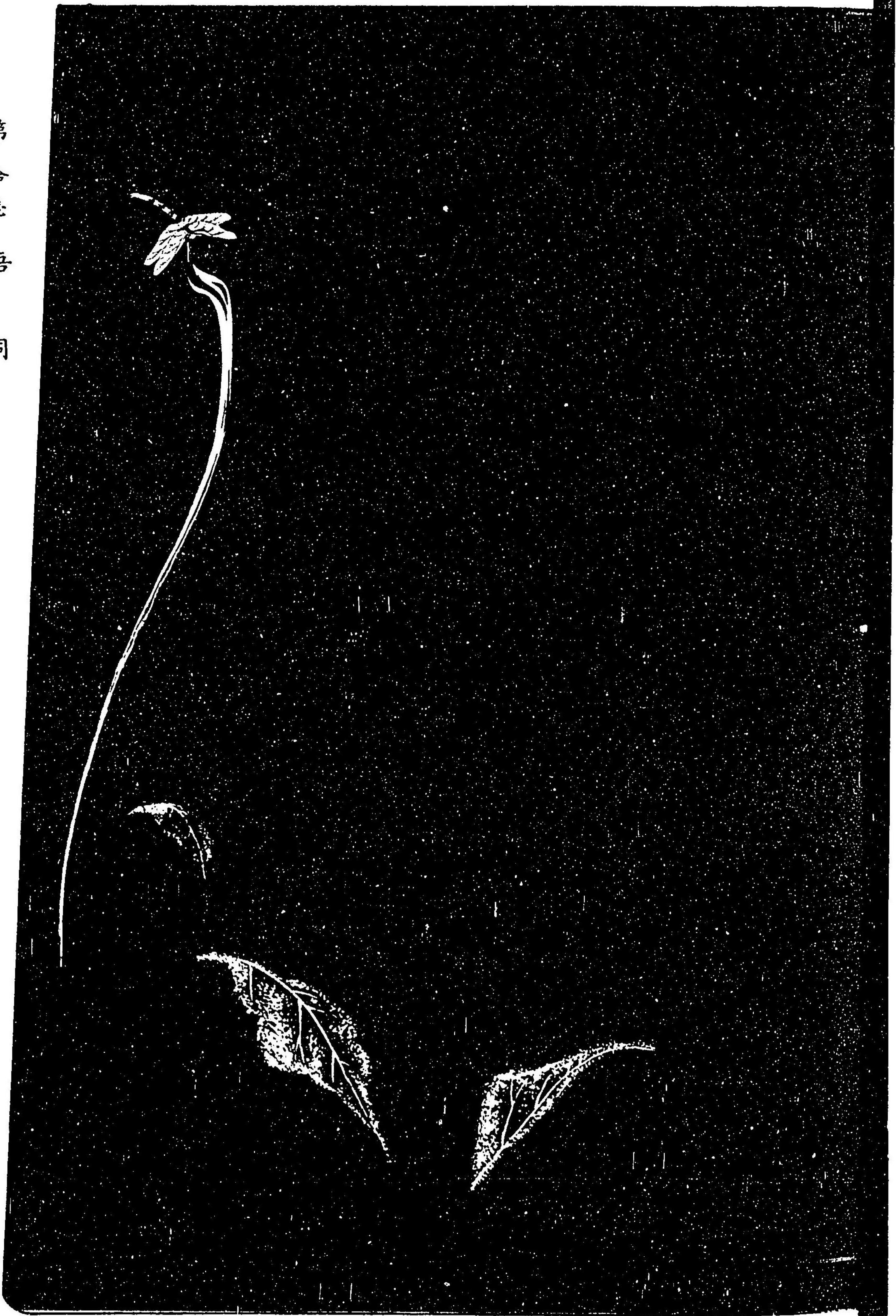
第九
花
筏



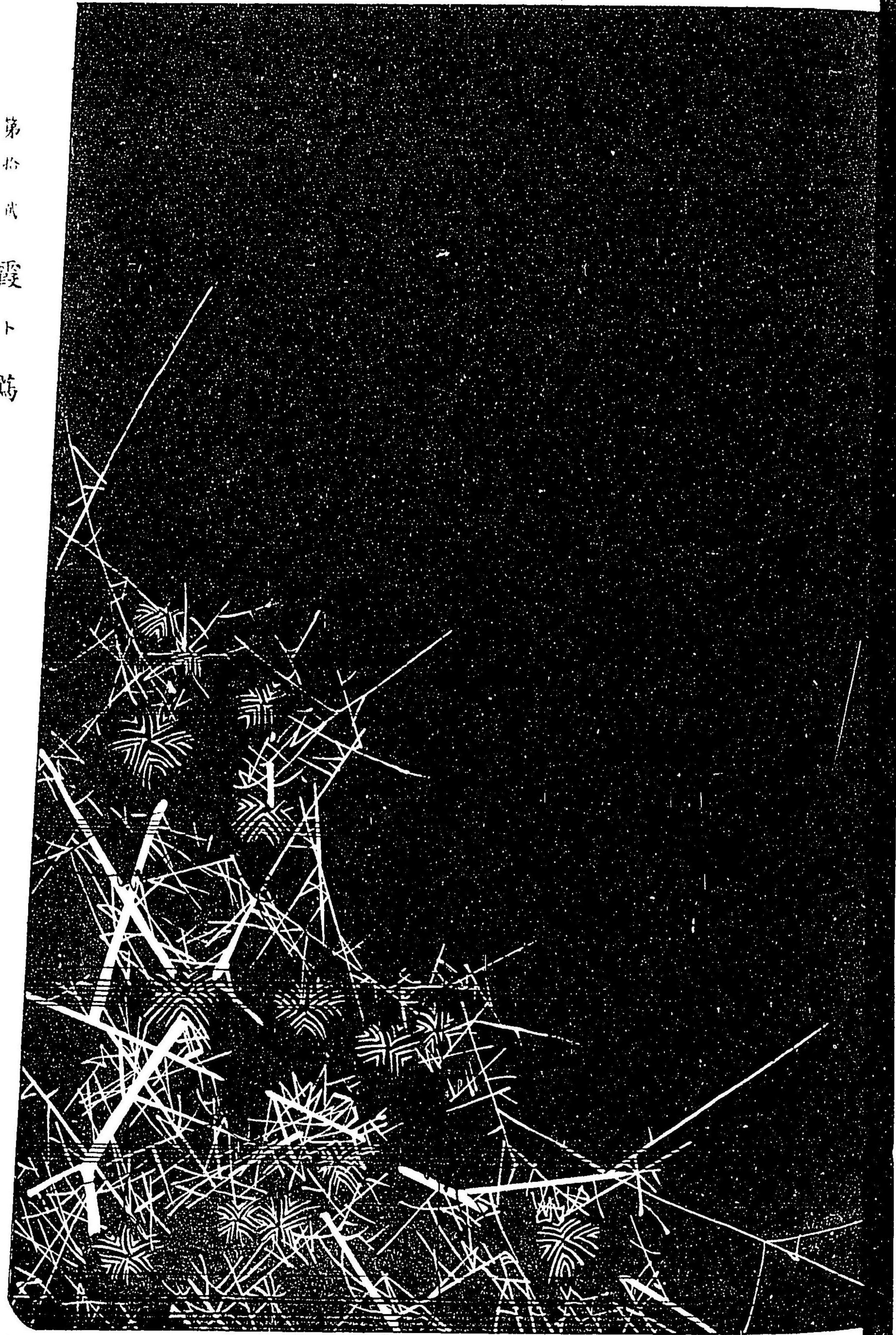
第拾欄



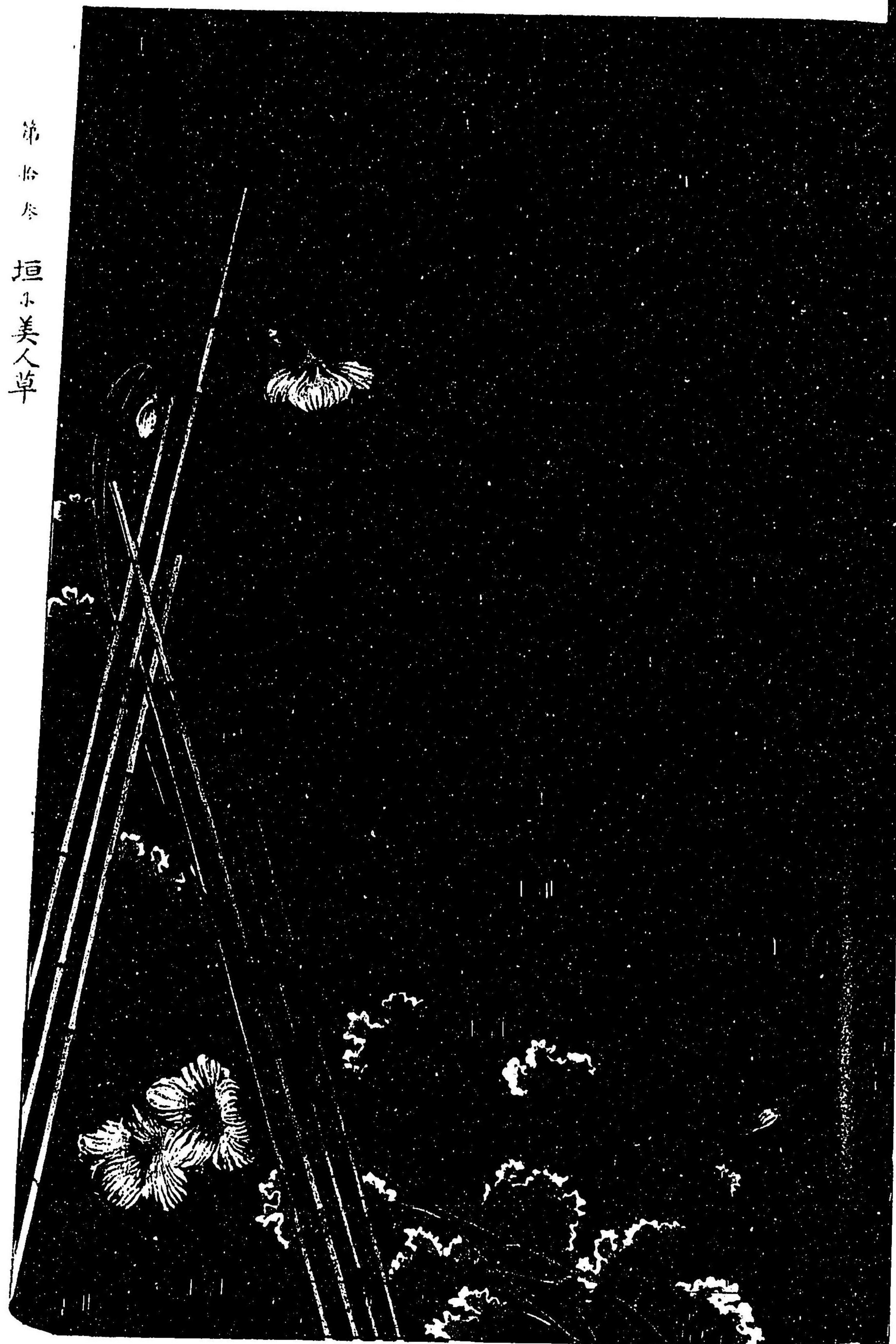
第拾卷
梧
桐



第拾貳
霞卜
蒹

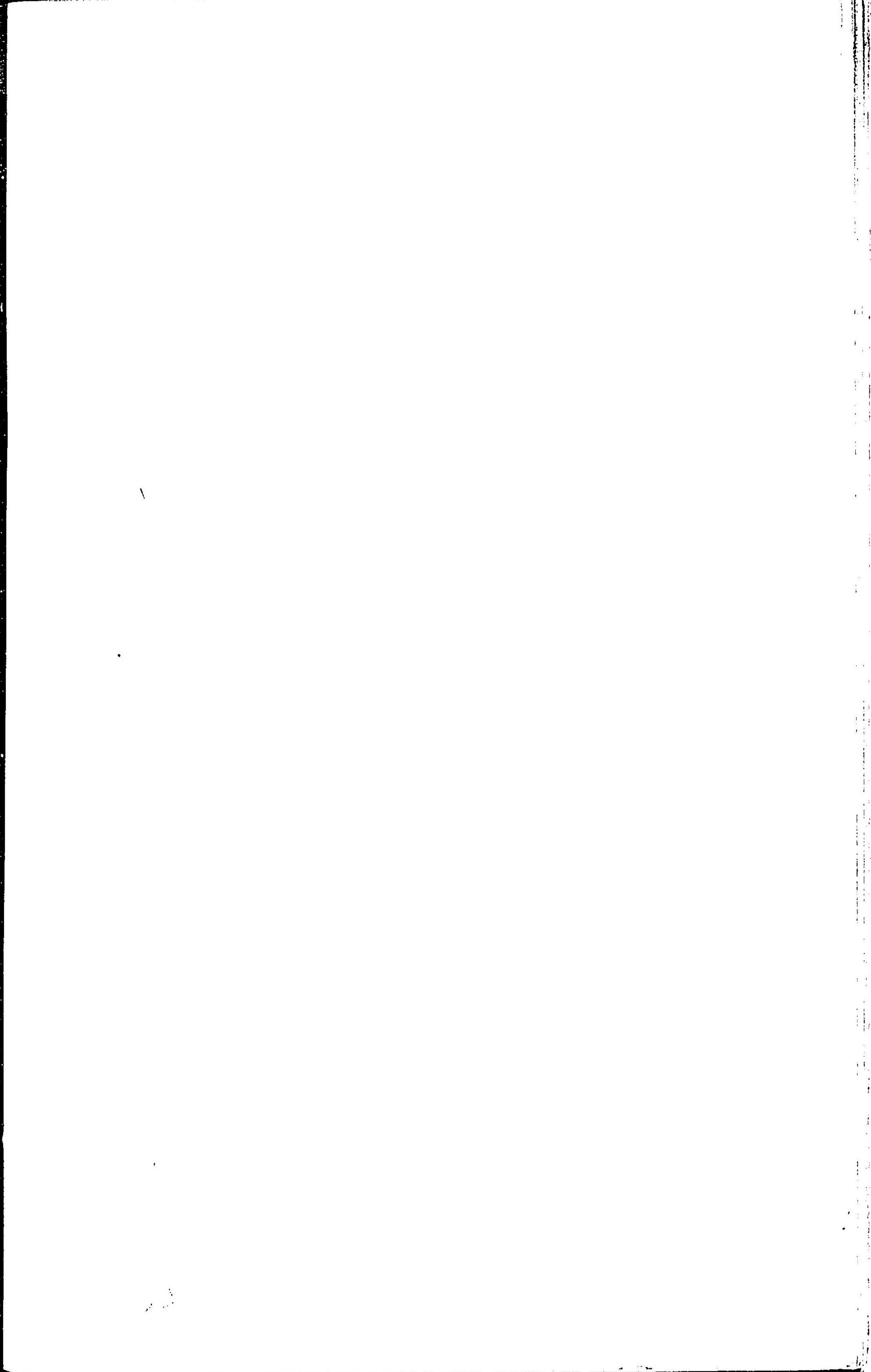
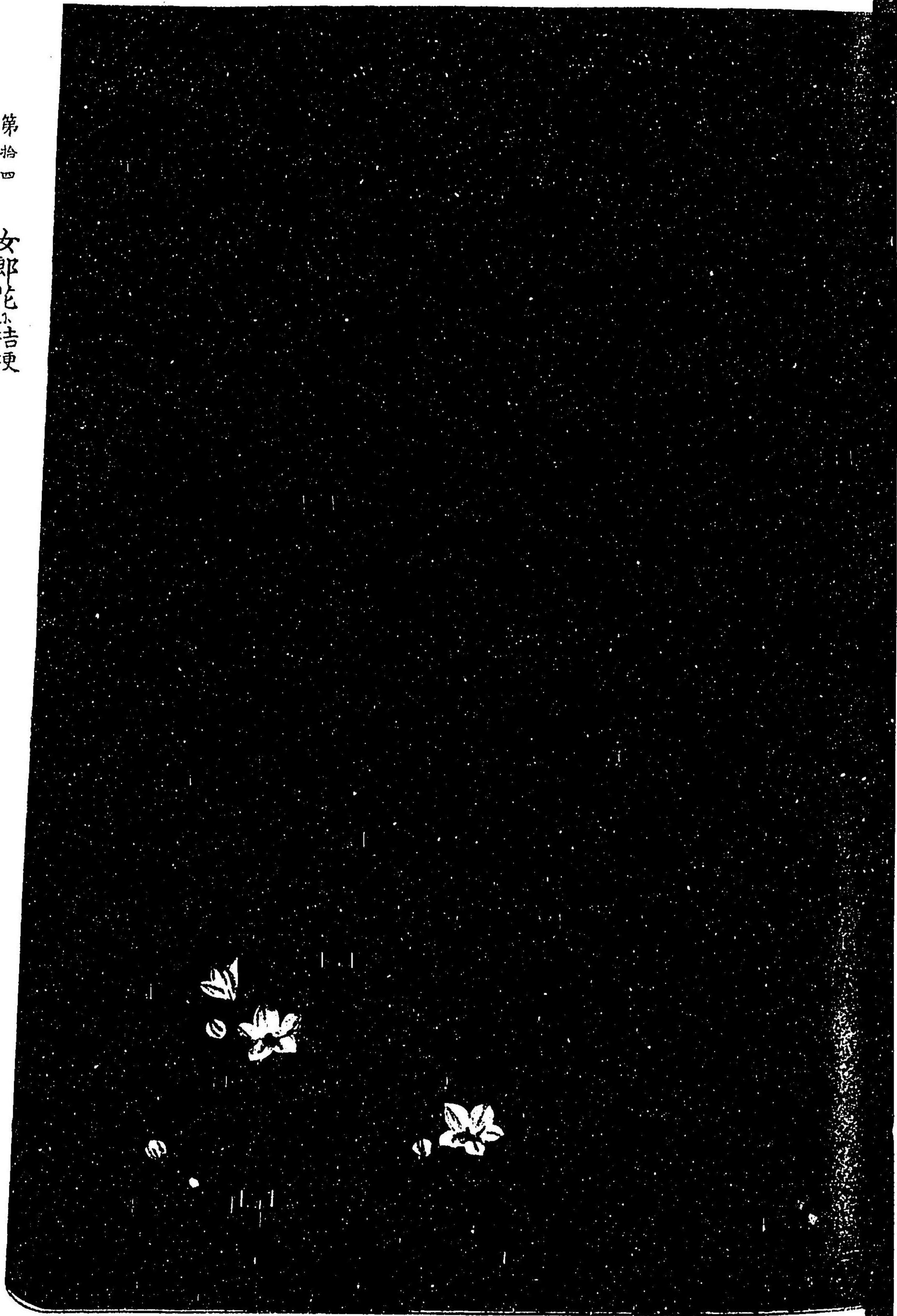


第十卷
垣小美人草

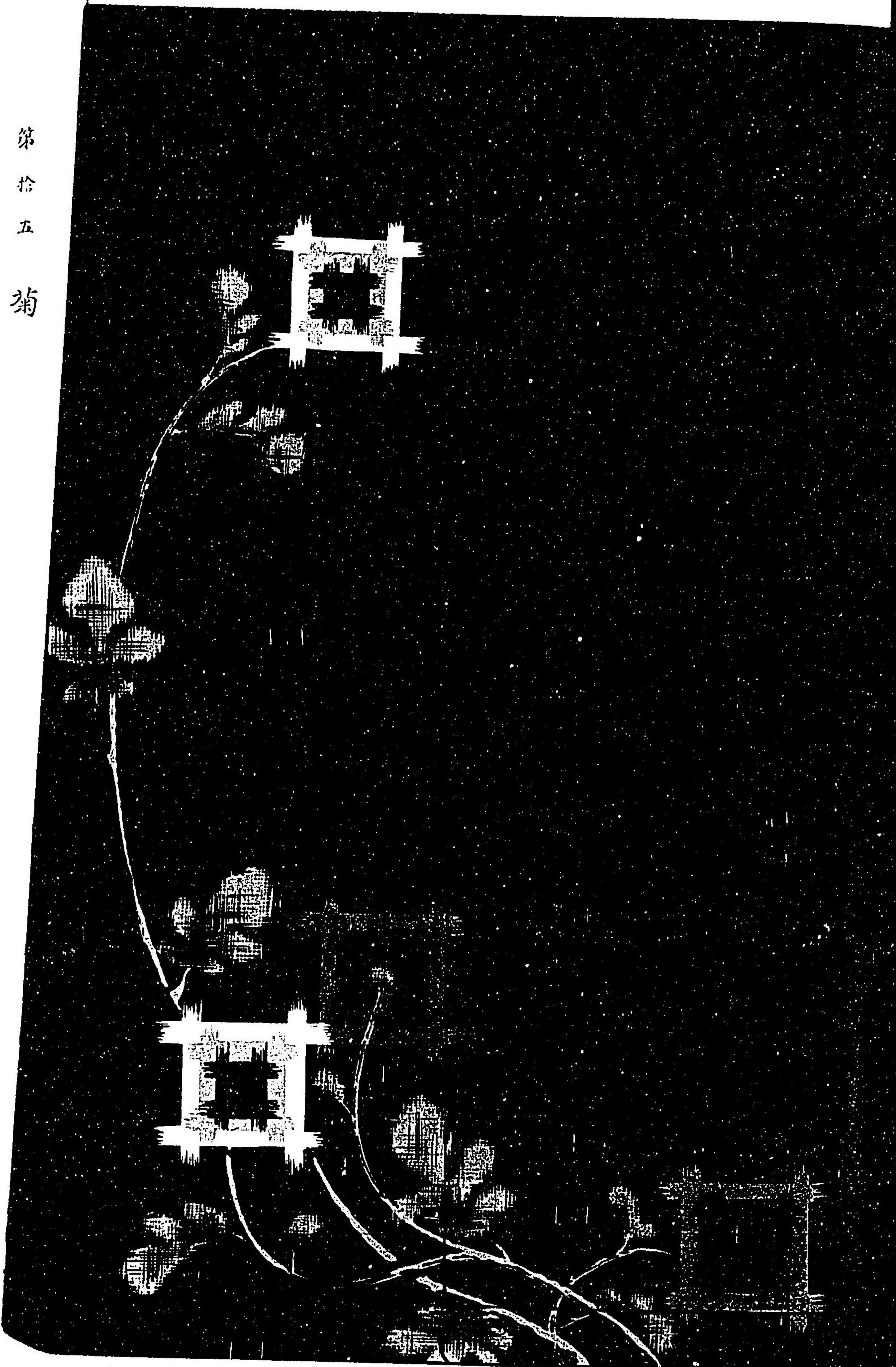


第拾四

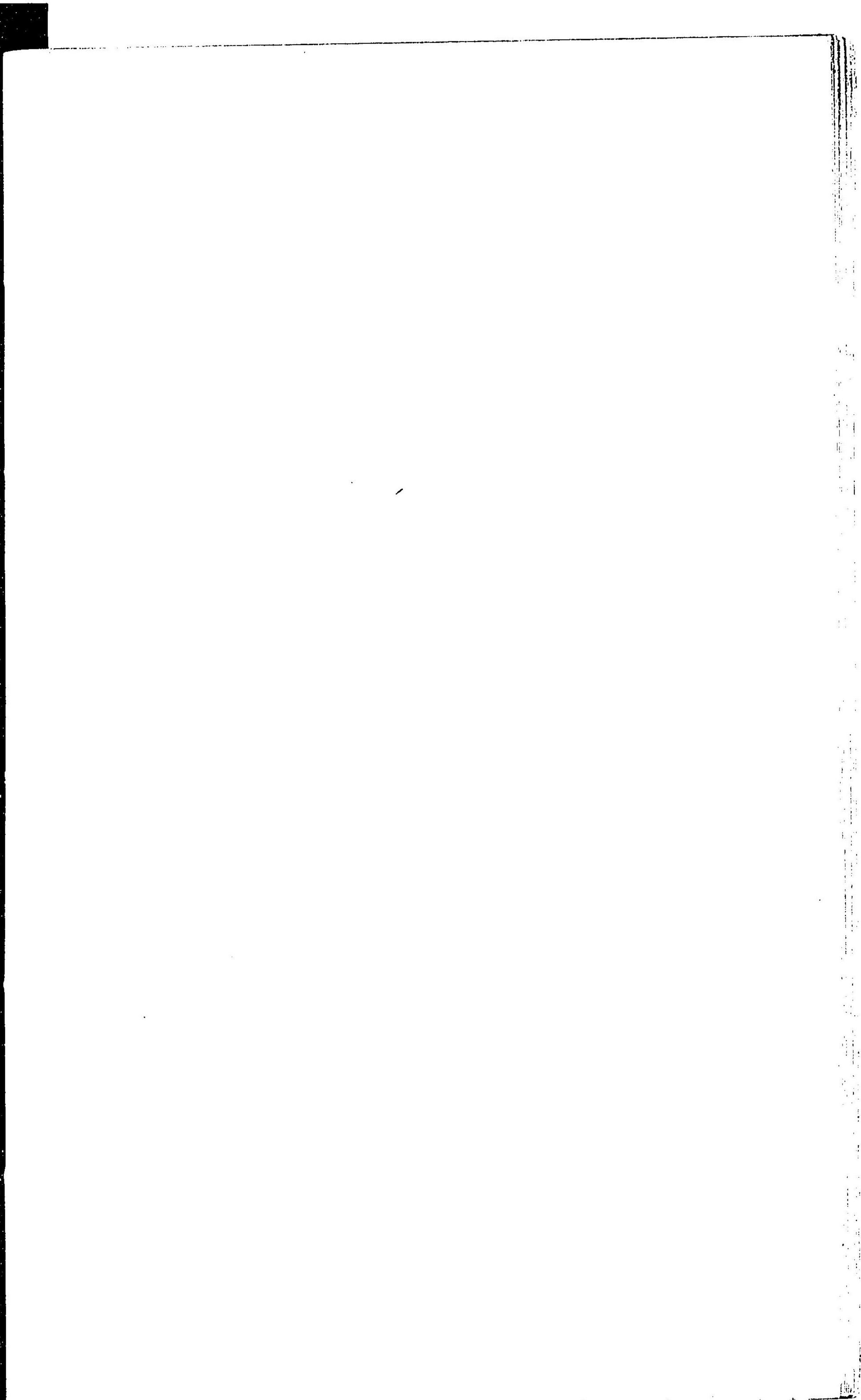
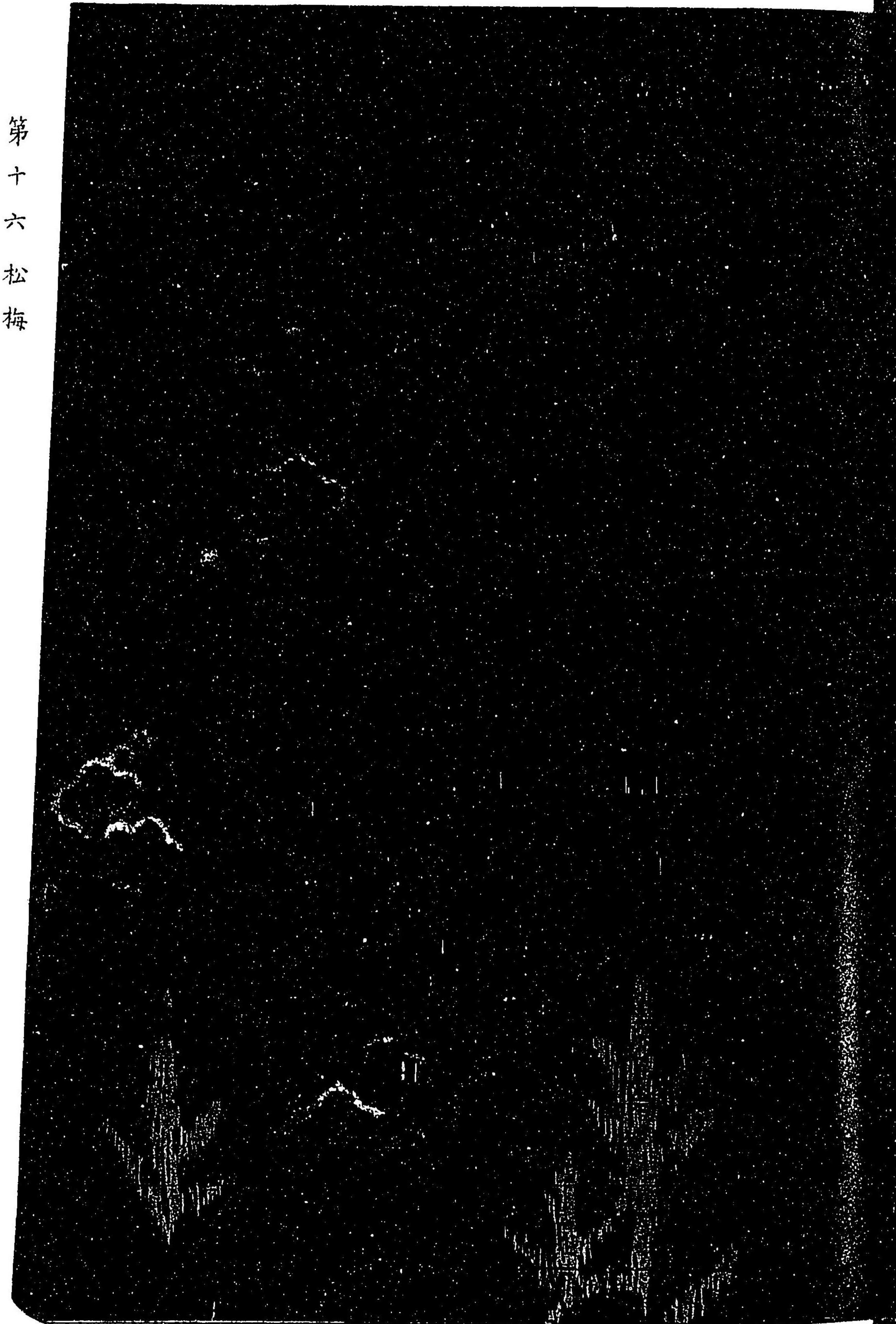
女郎花
桔梗



第拾五
菊



第十六 松梅



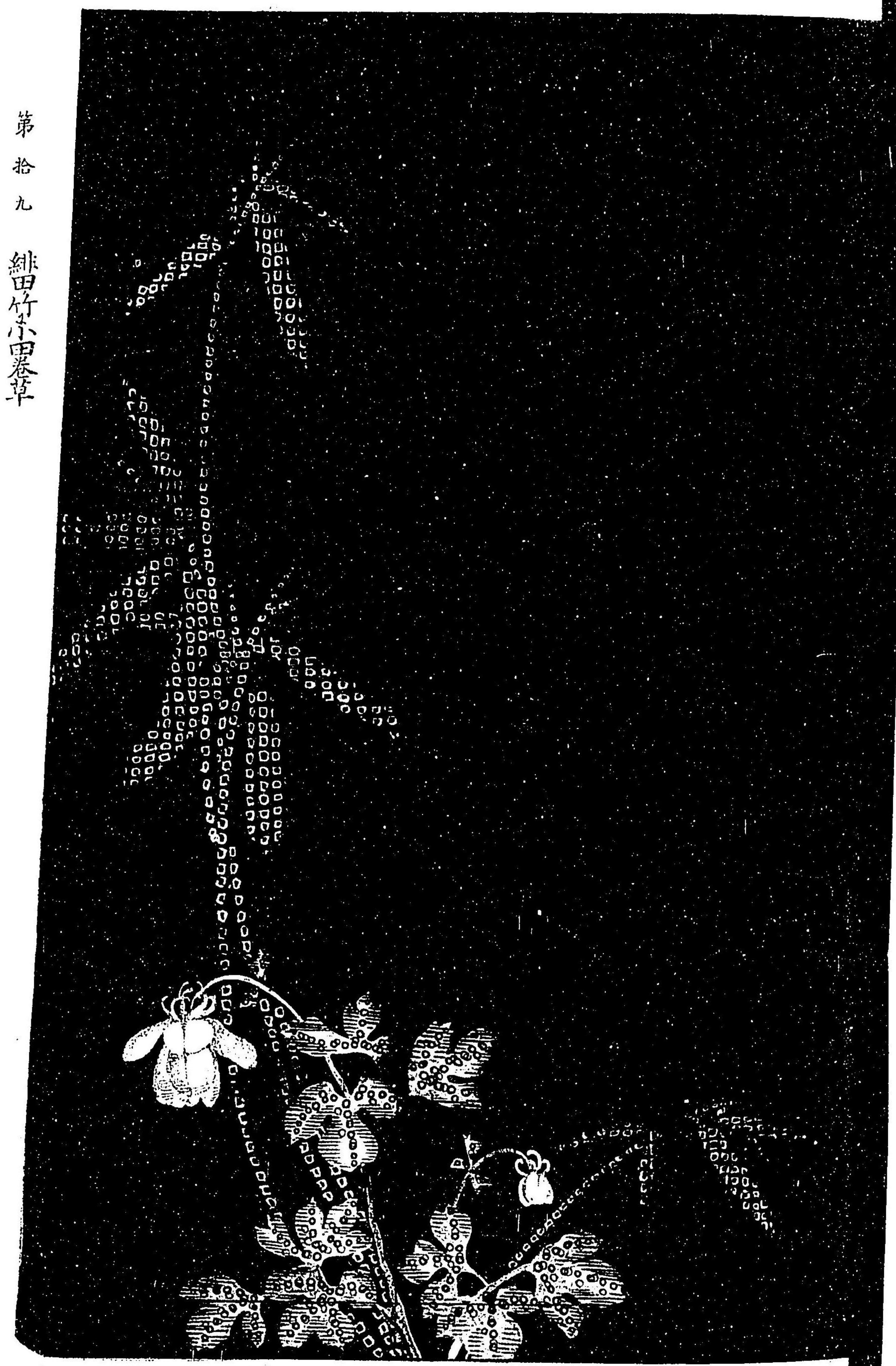
第七
萬



第十八
梅
松



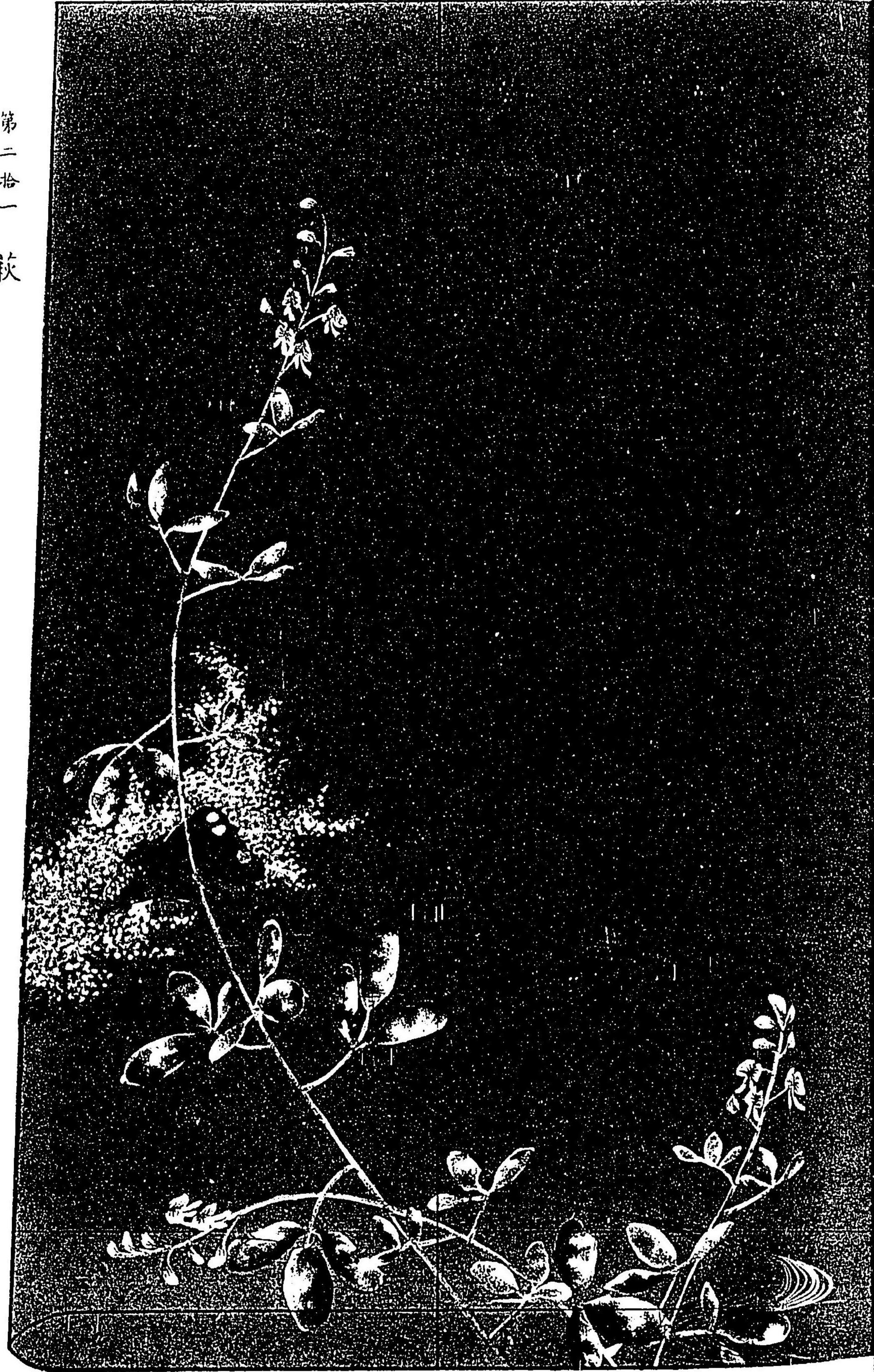
第九 緋田竹小田卷草



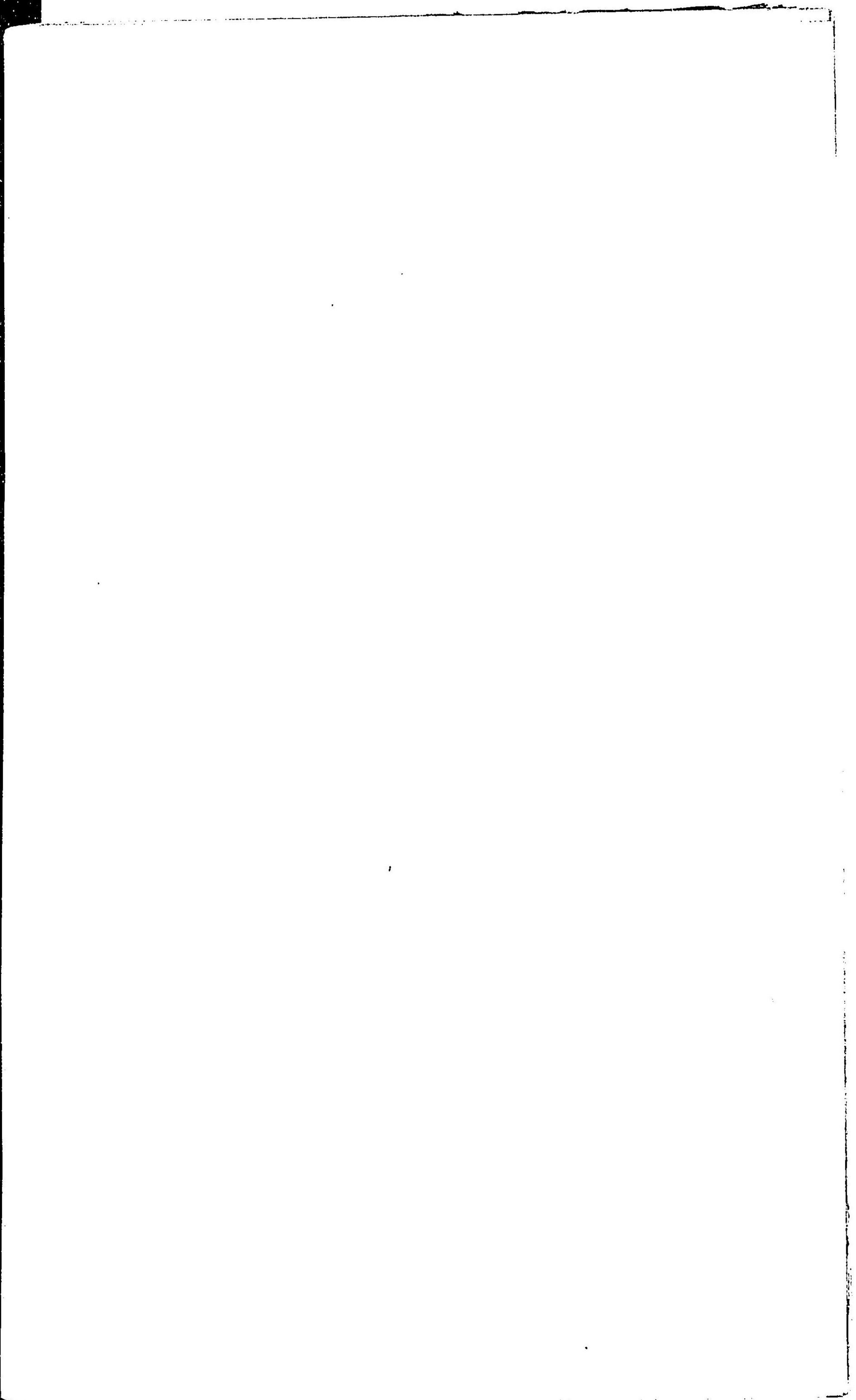
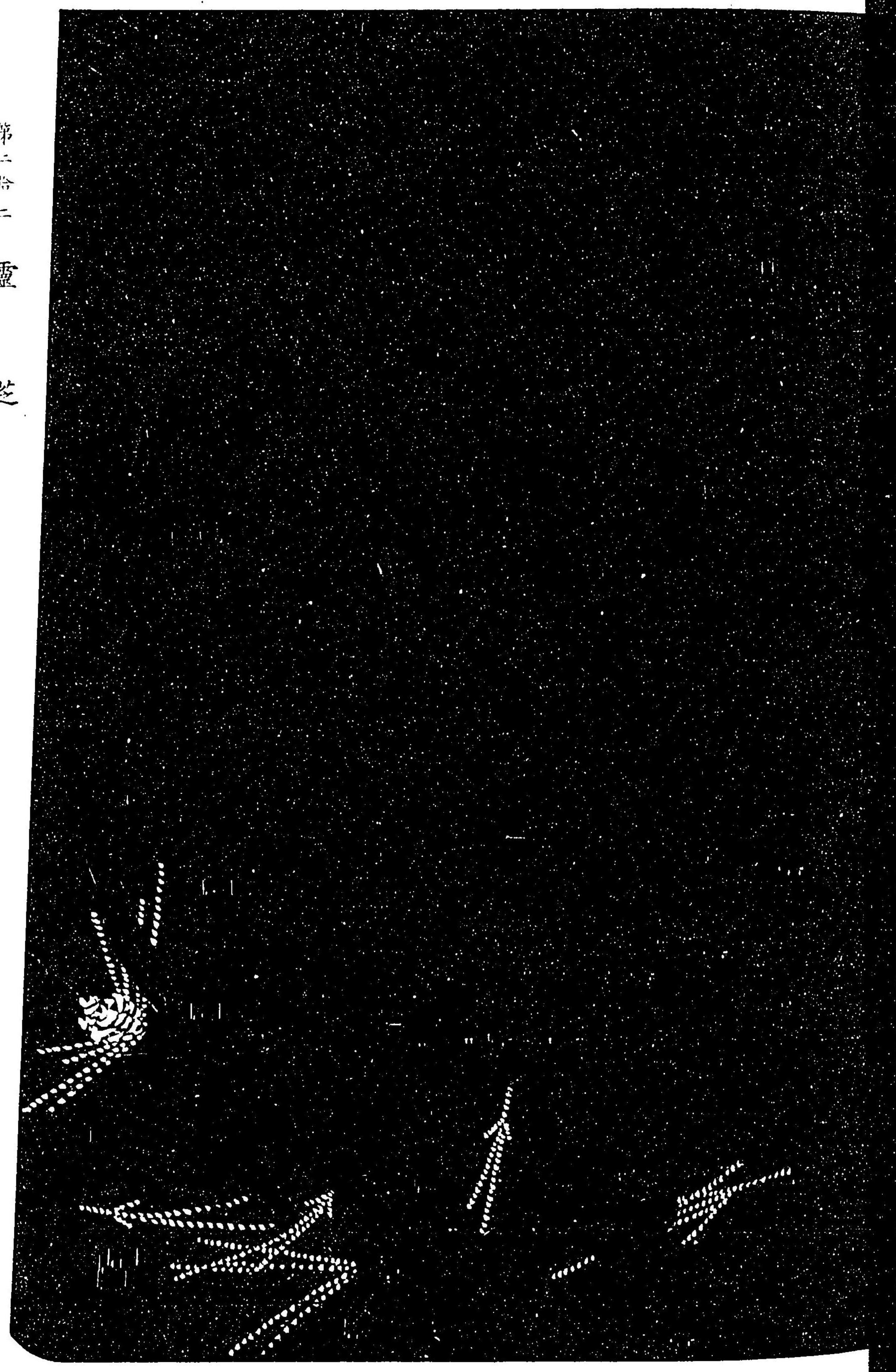
卷一
百合



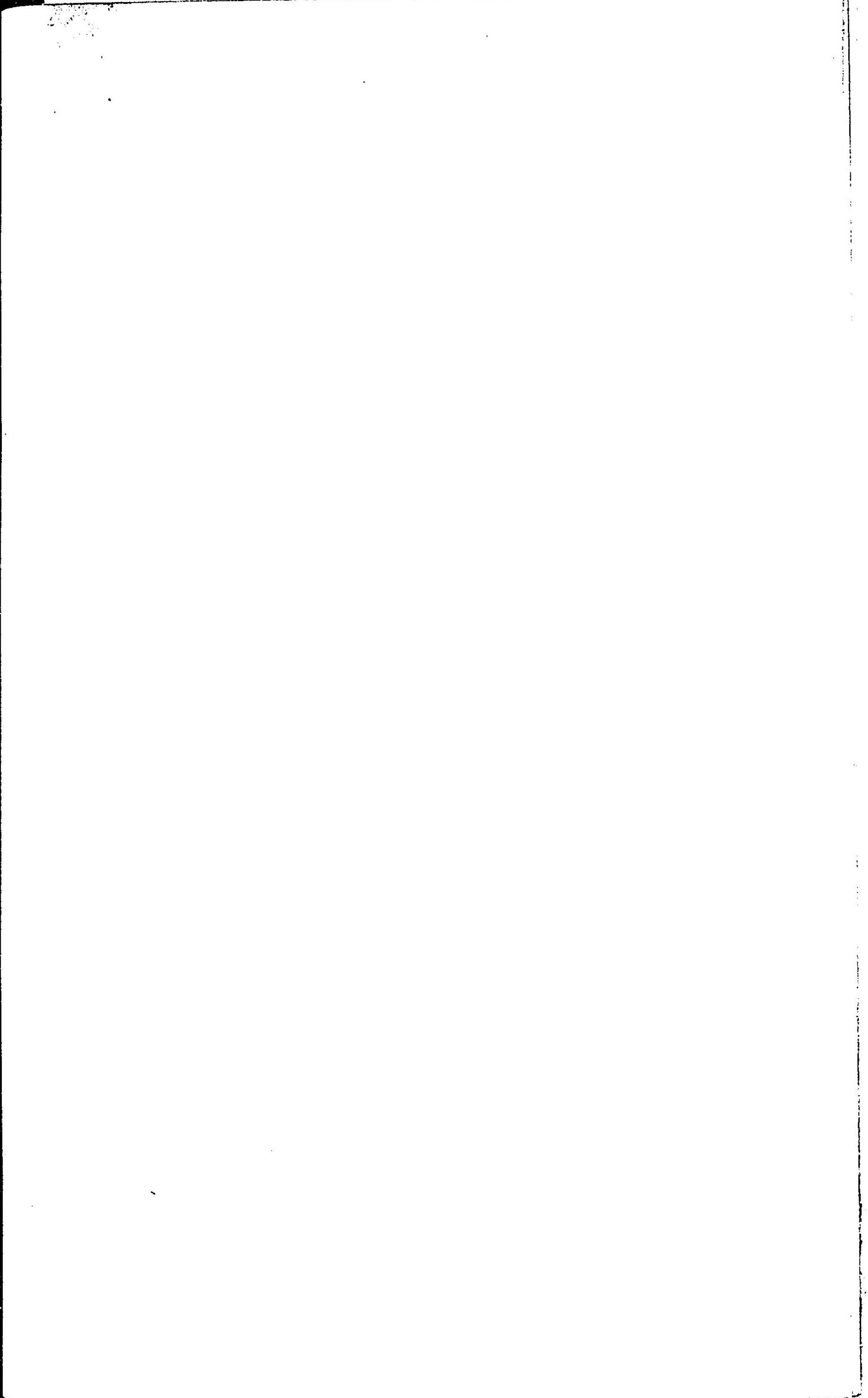
第二拾一 萩



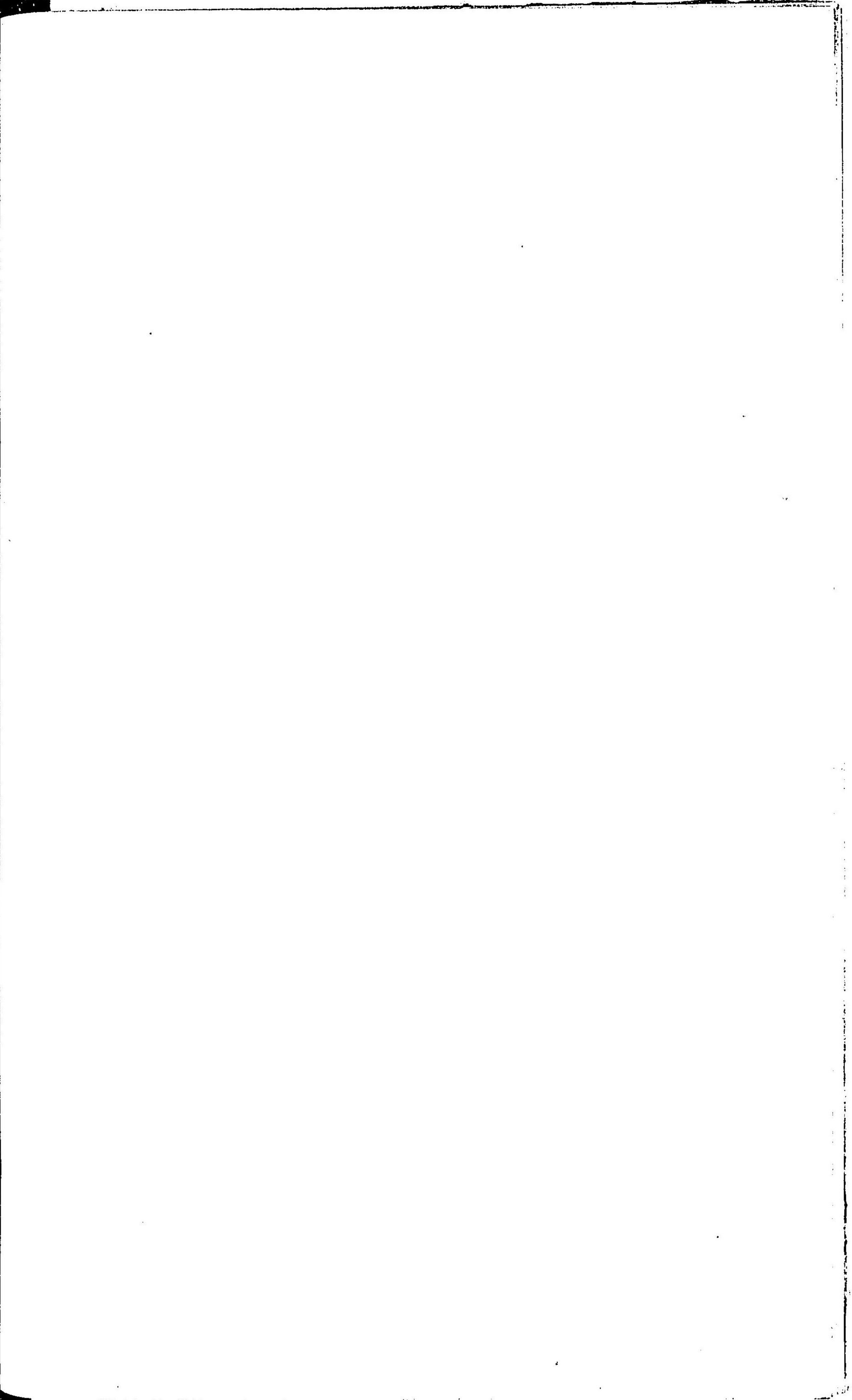
第二拾二靈芝



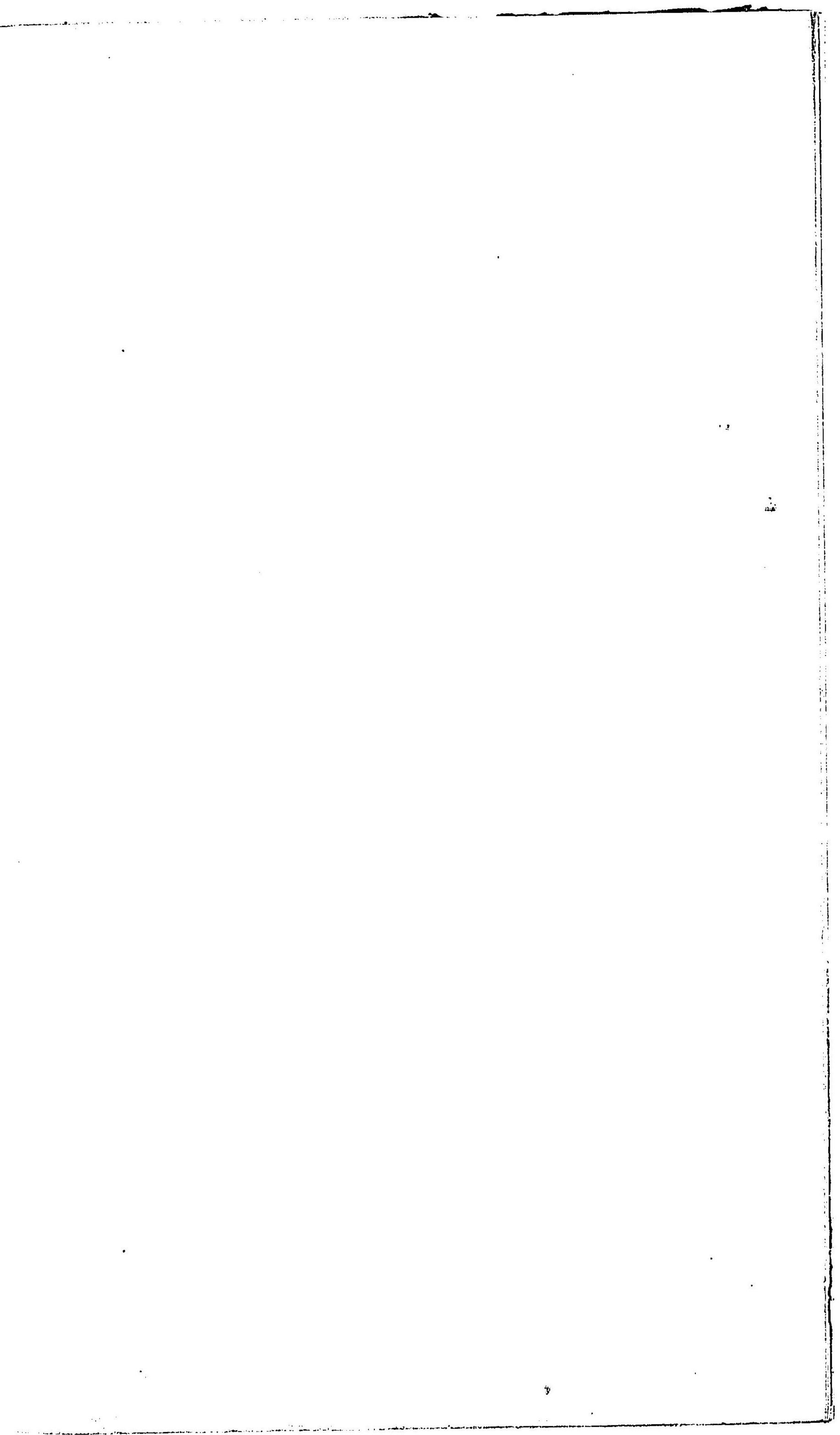
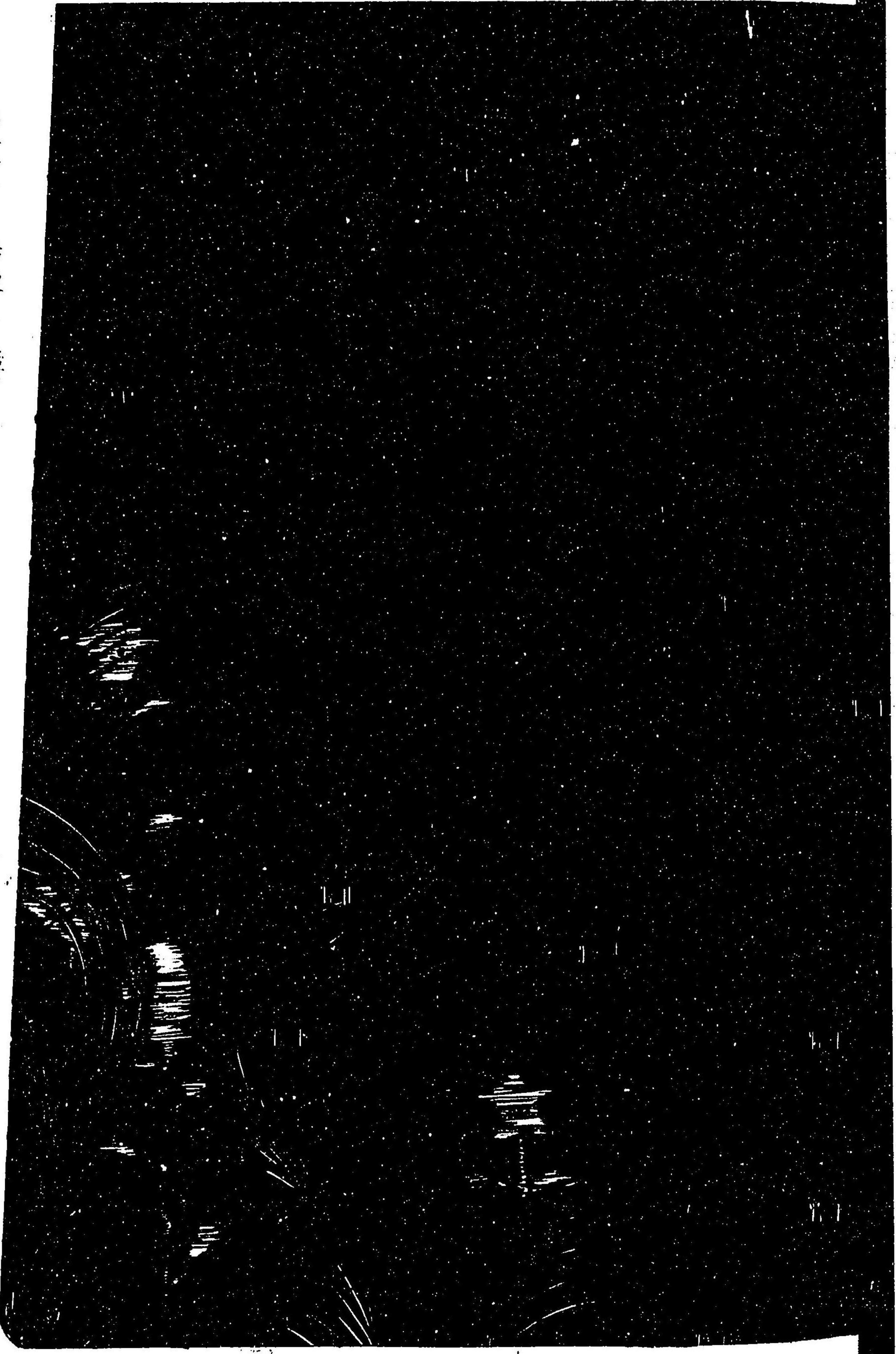
第二拾三 野菊に薄



第五
結城
薄



第二卷
桔梗二薄



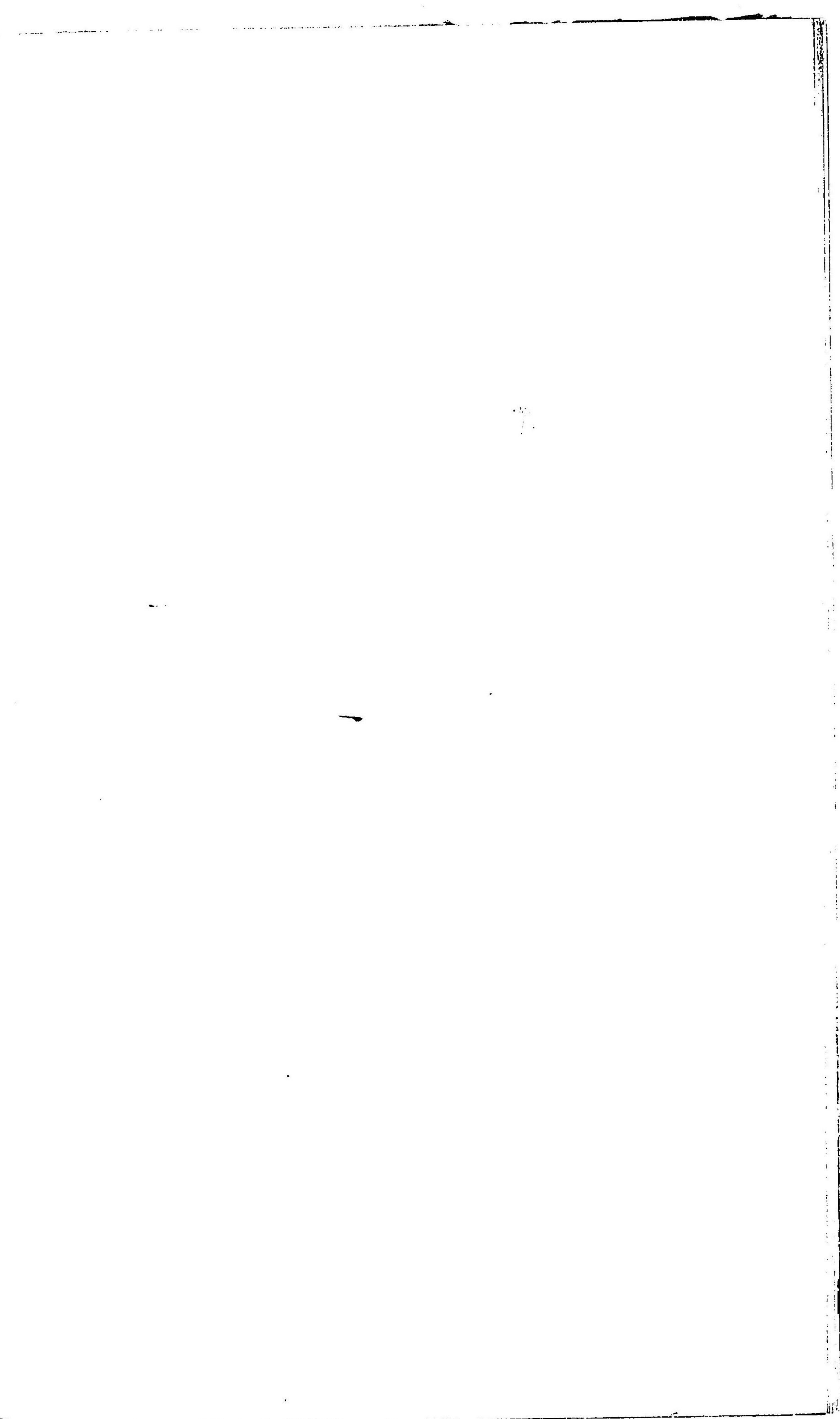
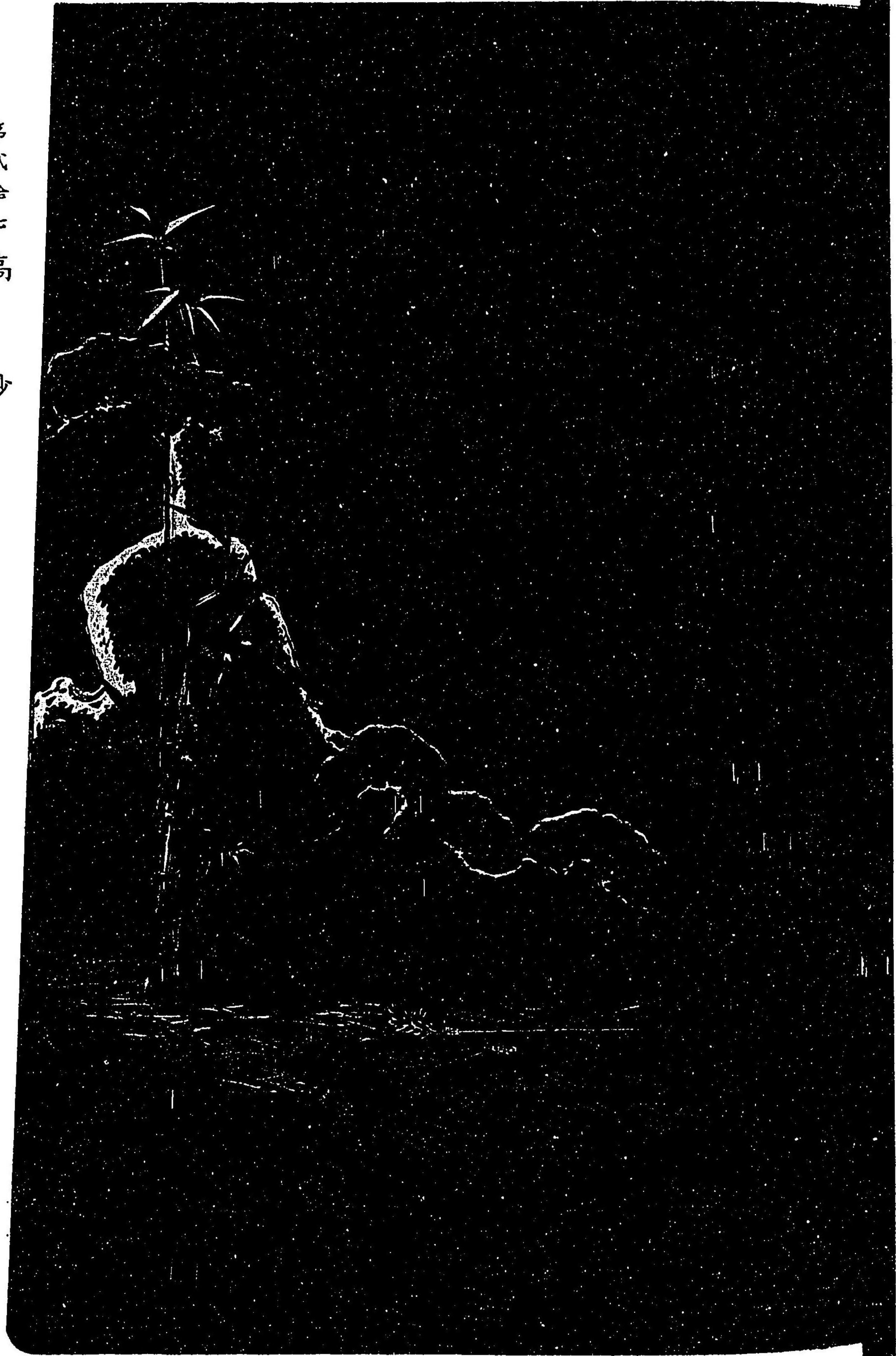
第貳拾五 稻二 蝶





第貳拾七高

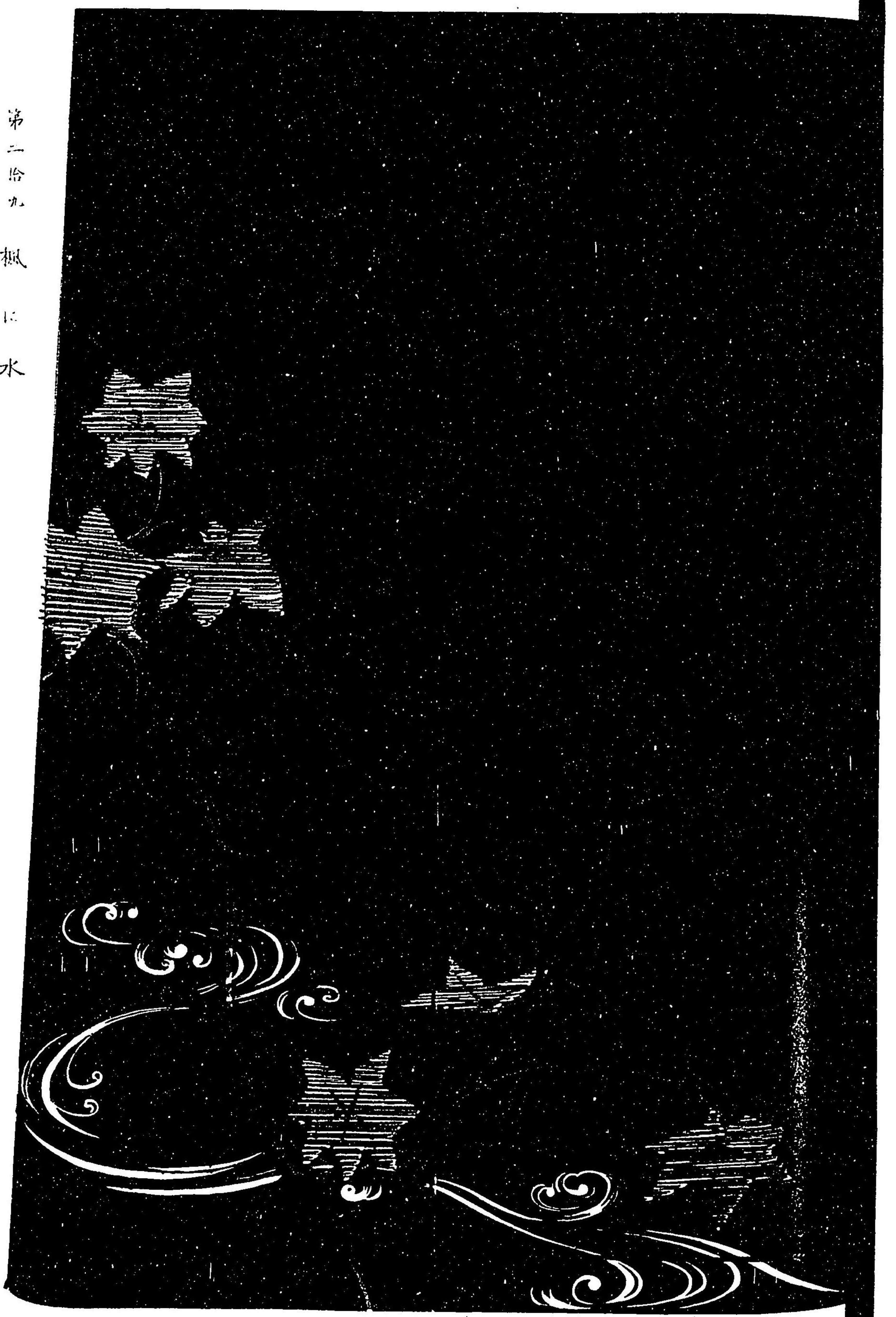
砂



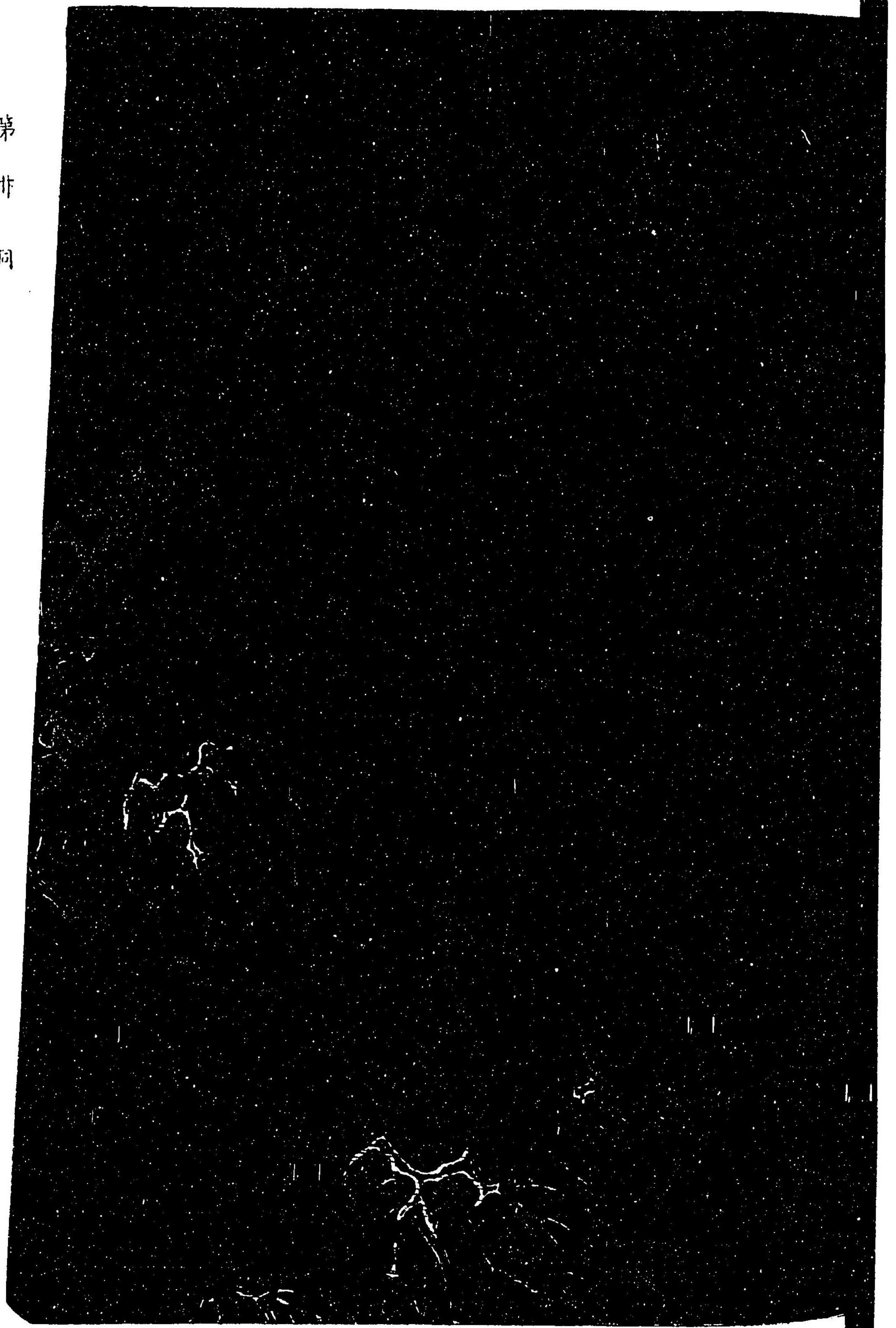
第六卷 櫻欄雪下



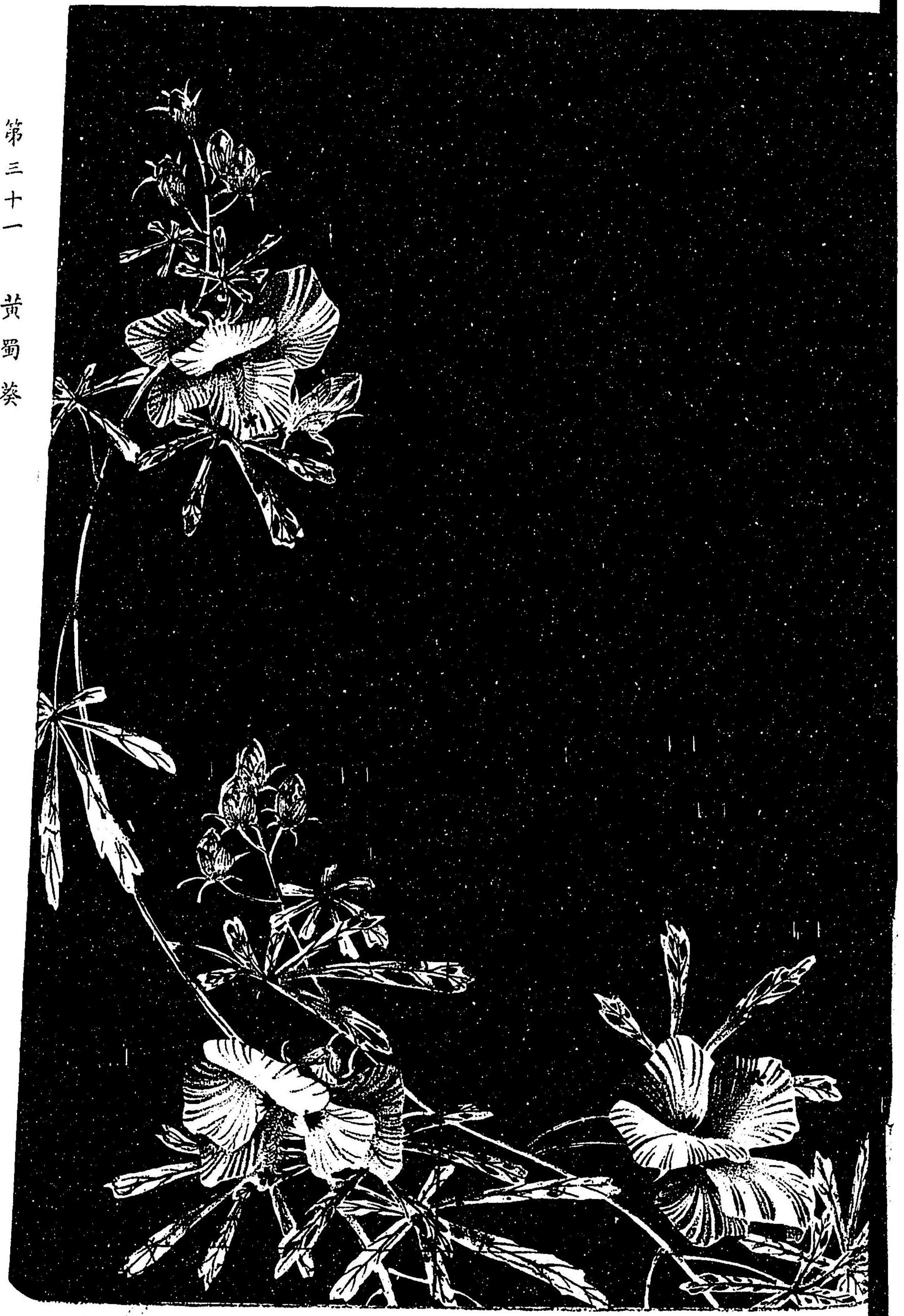
第二拾九
楓
水



第
亦
桐



第三十一 黄蜀葵

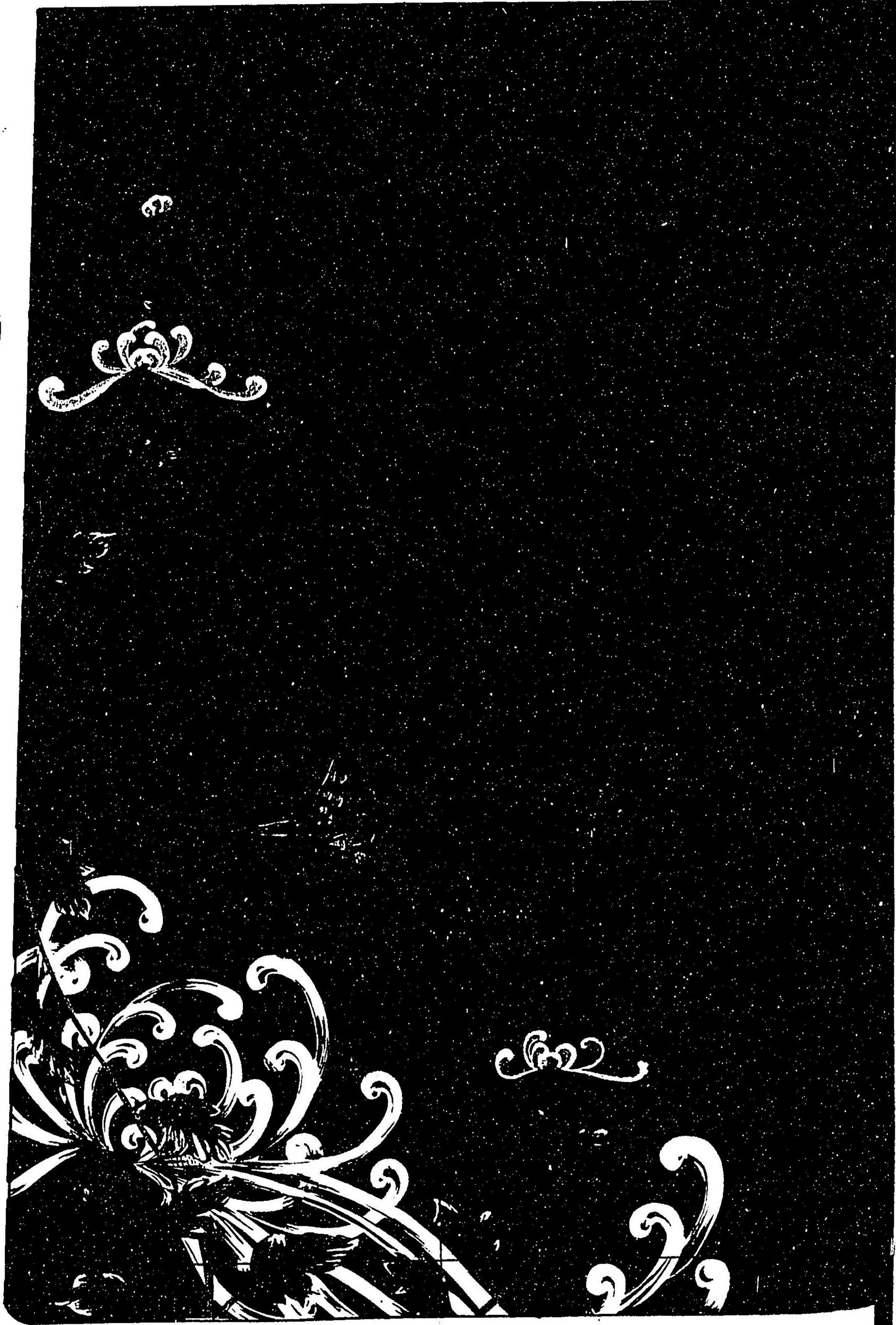


第三十二
かきけり草



第三拾三

菊

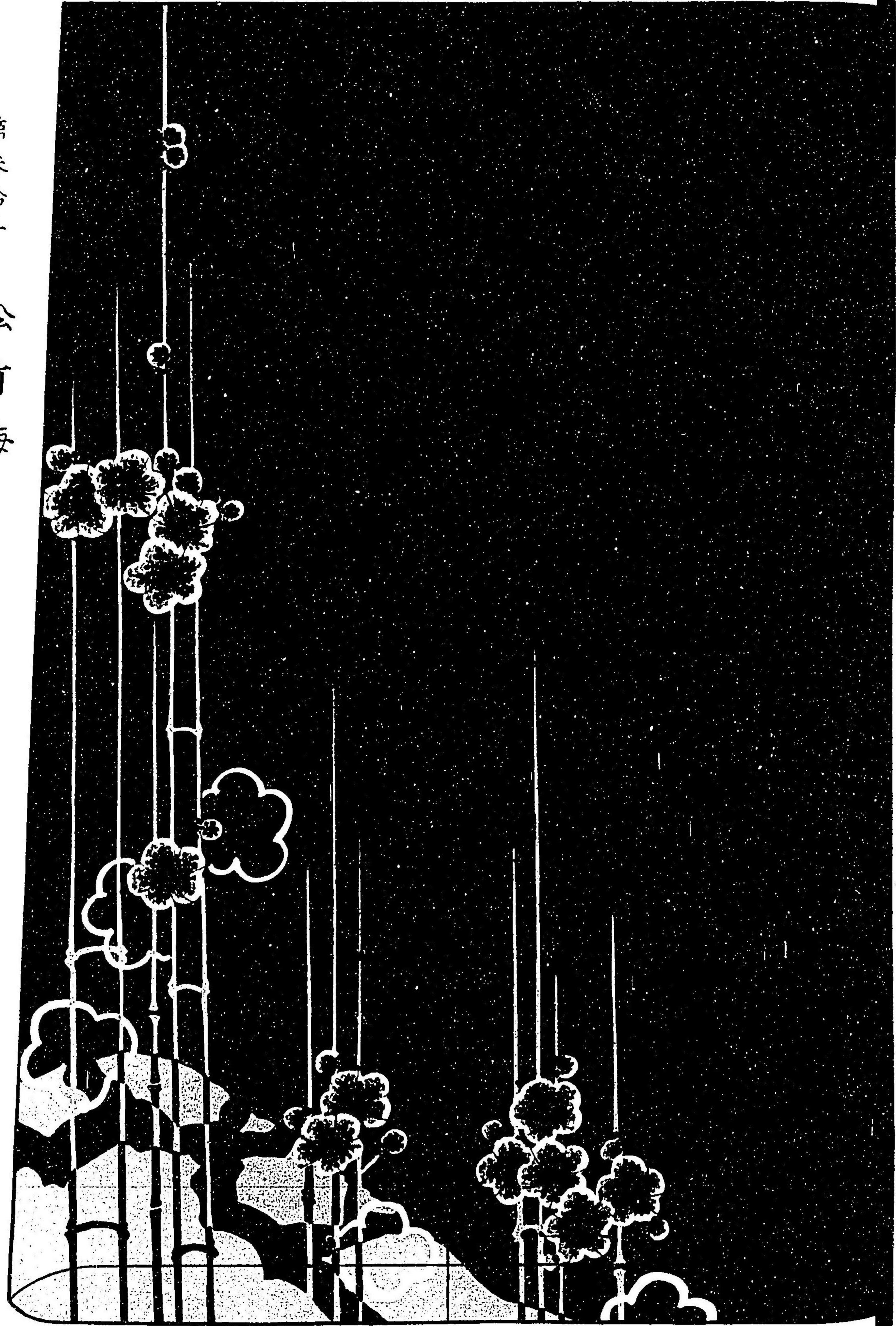


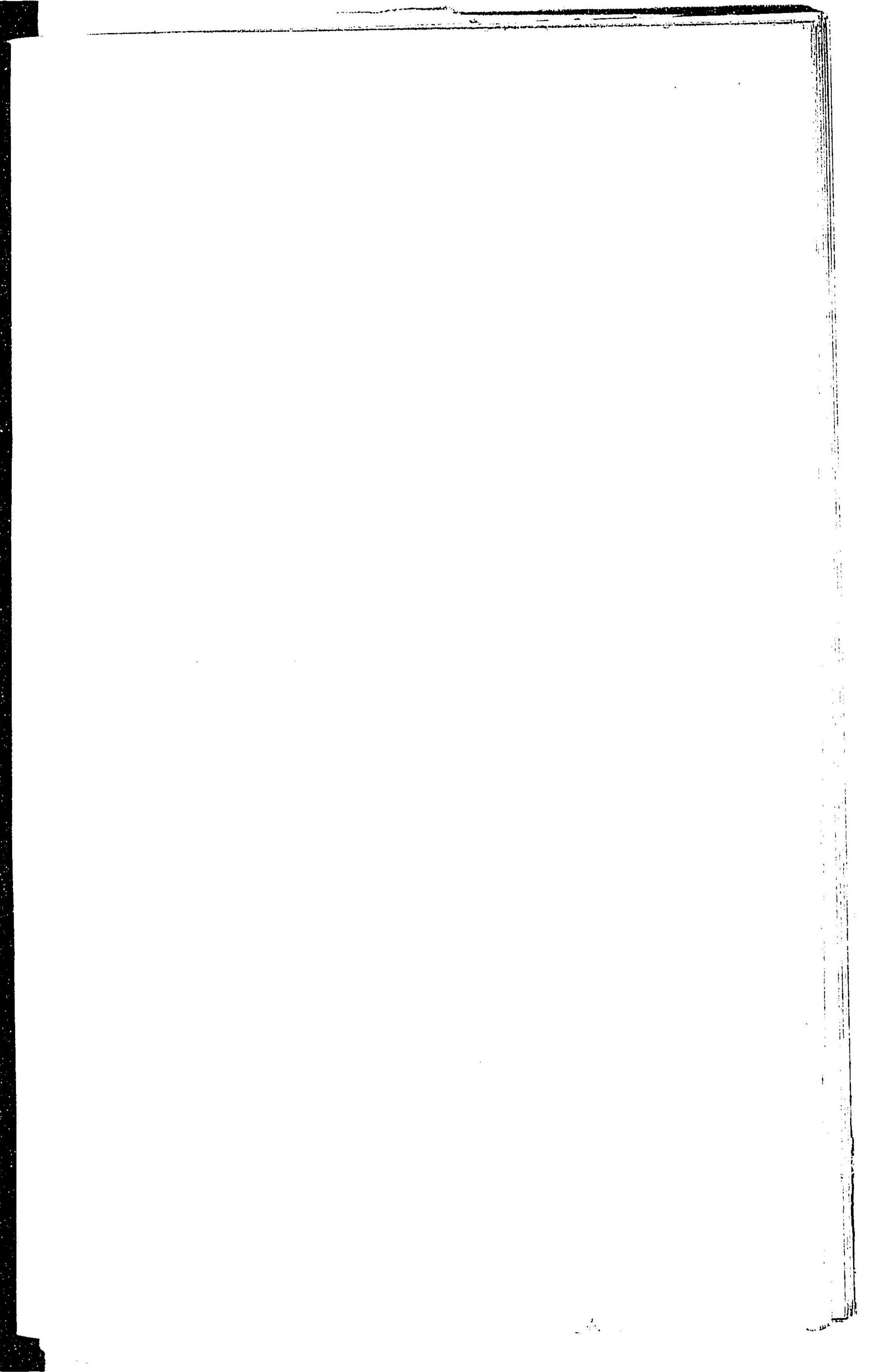
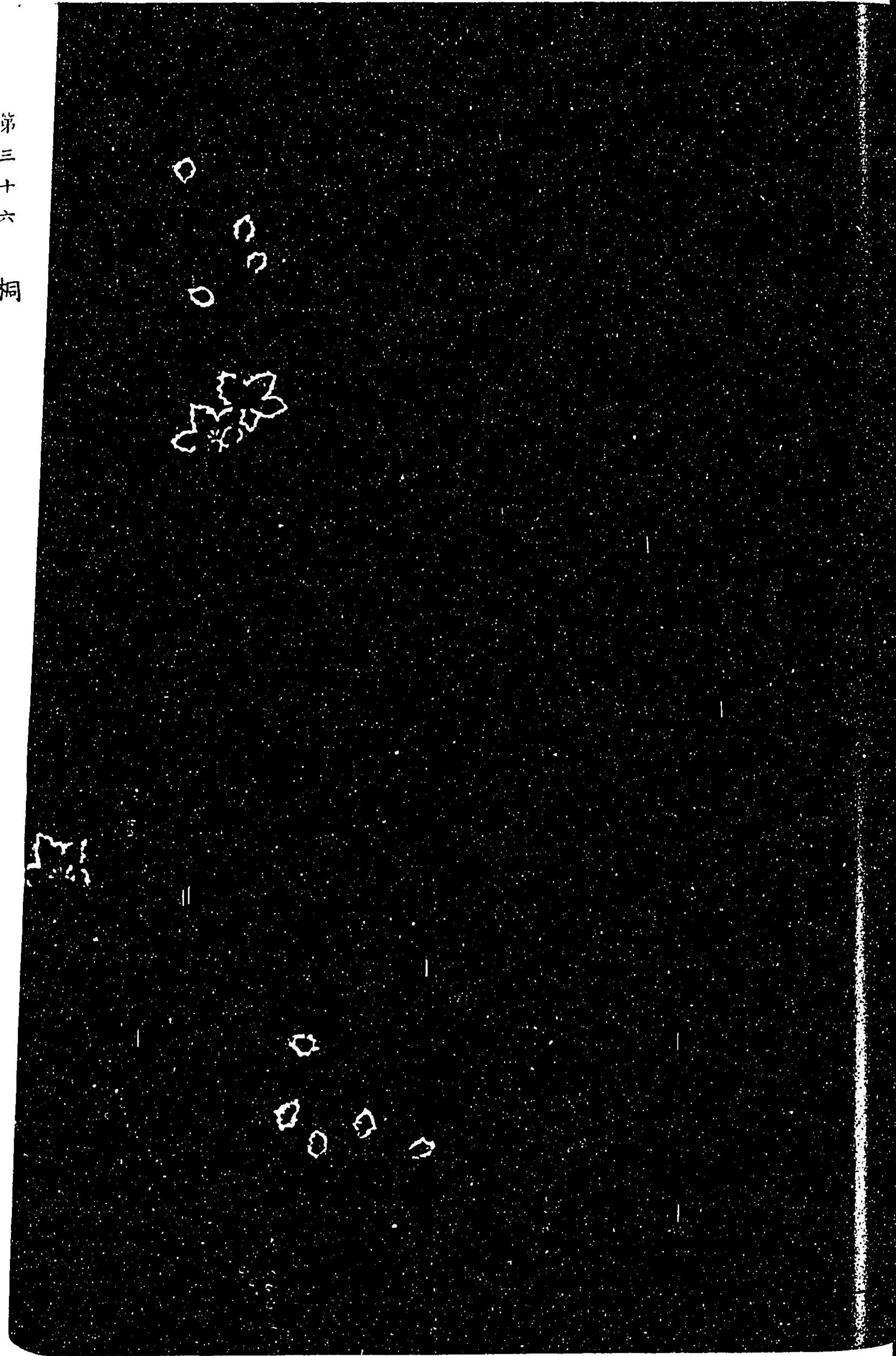
第三拾四
菊
水



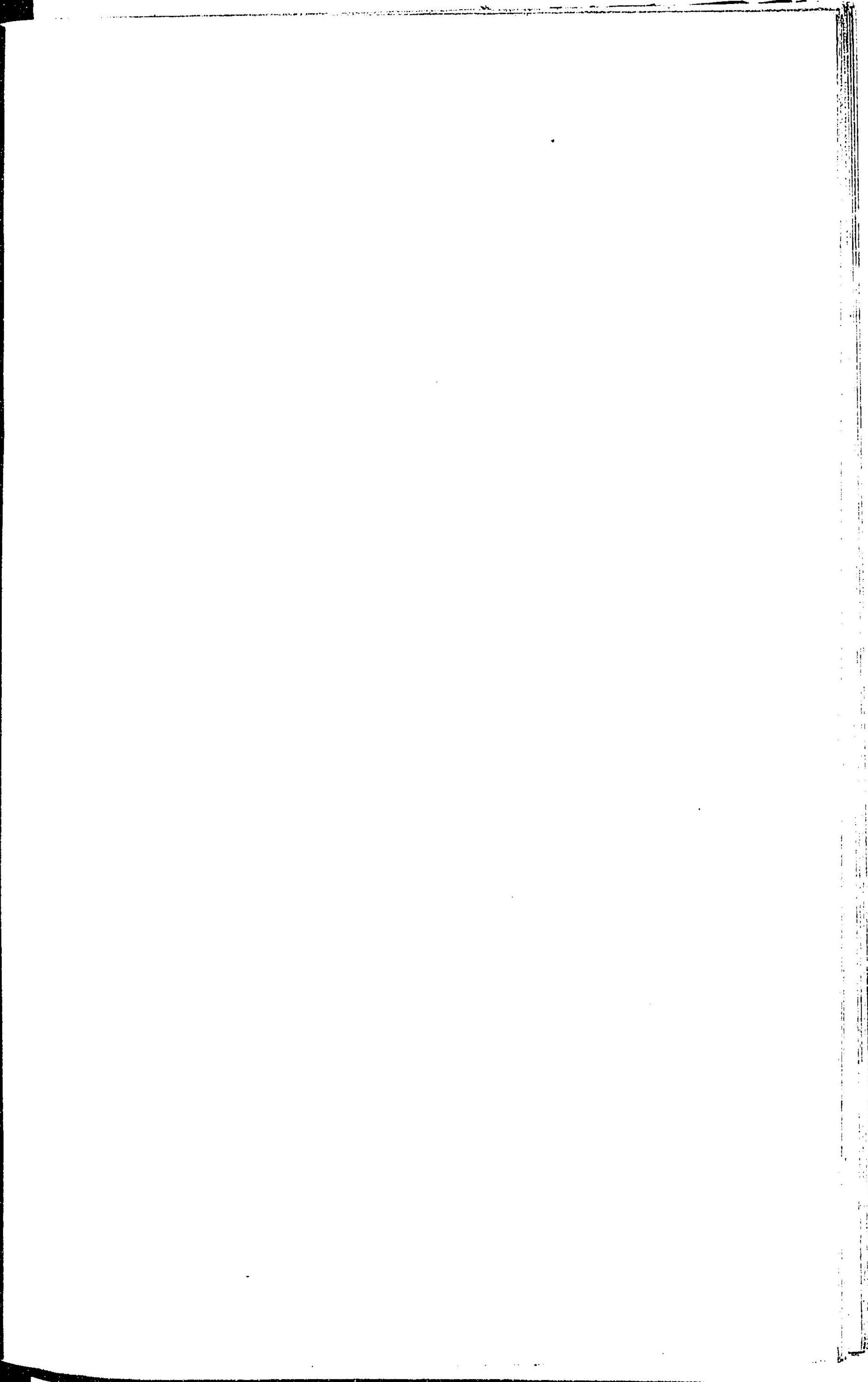
第參拾五

松竹梅



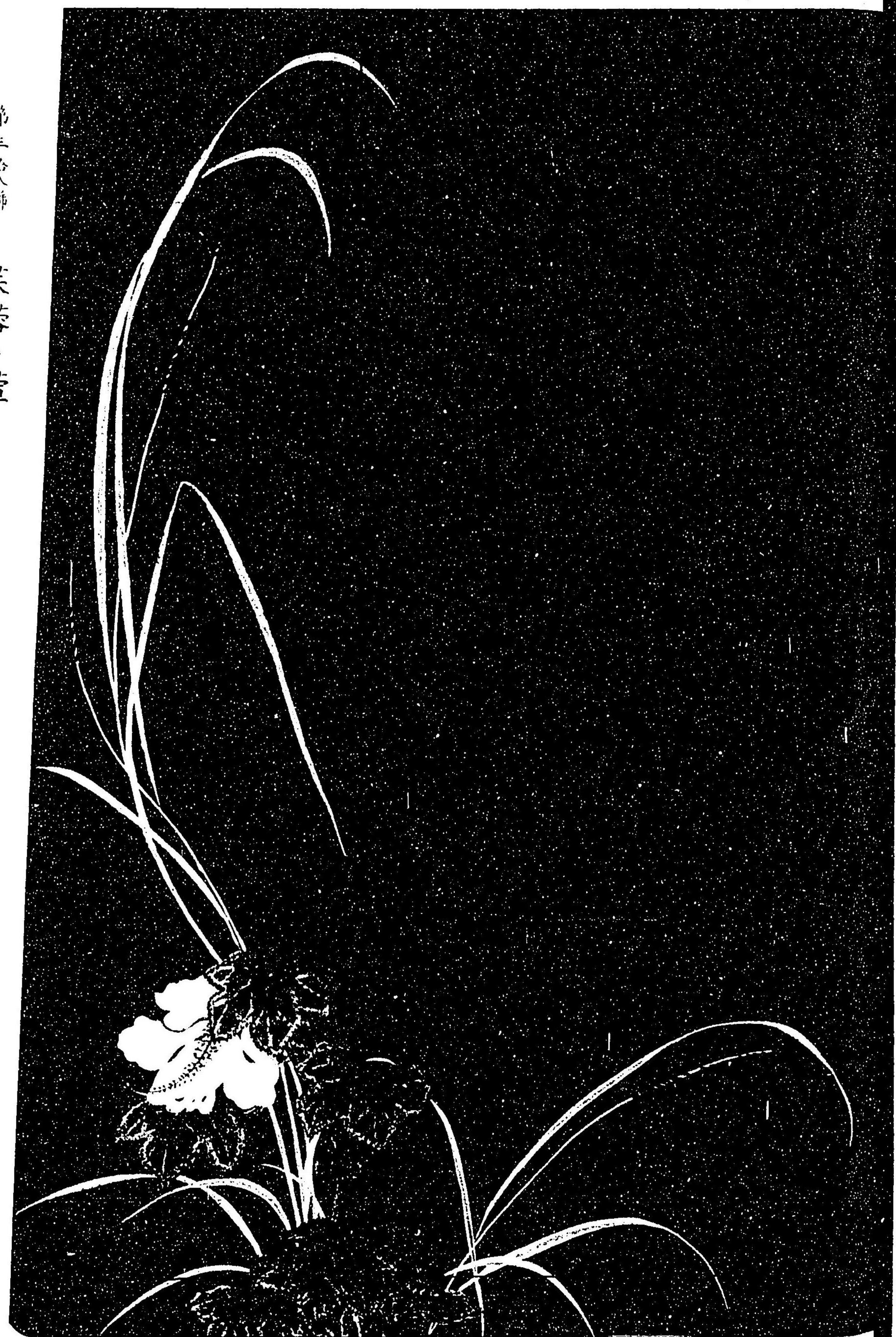


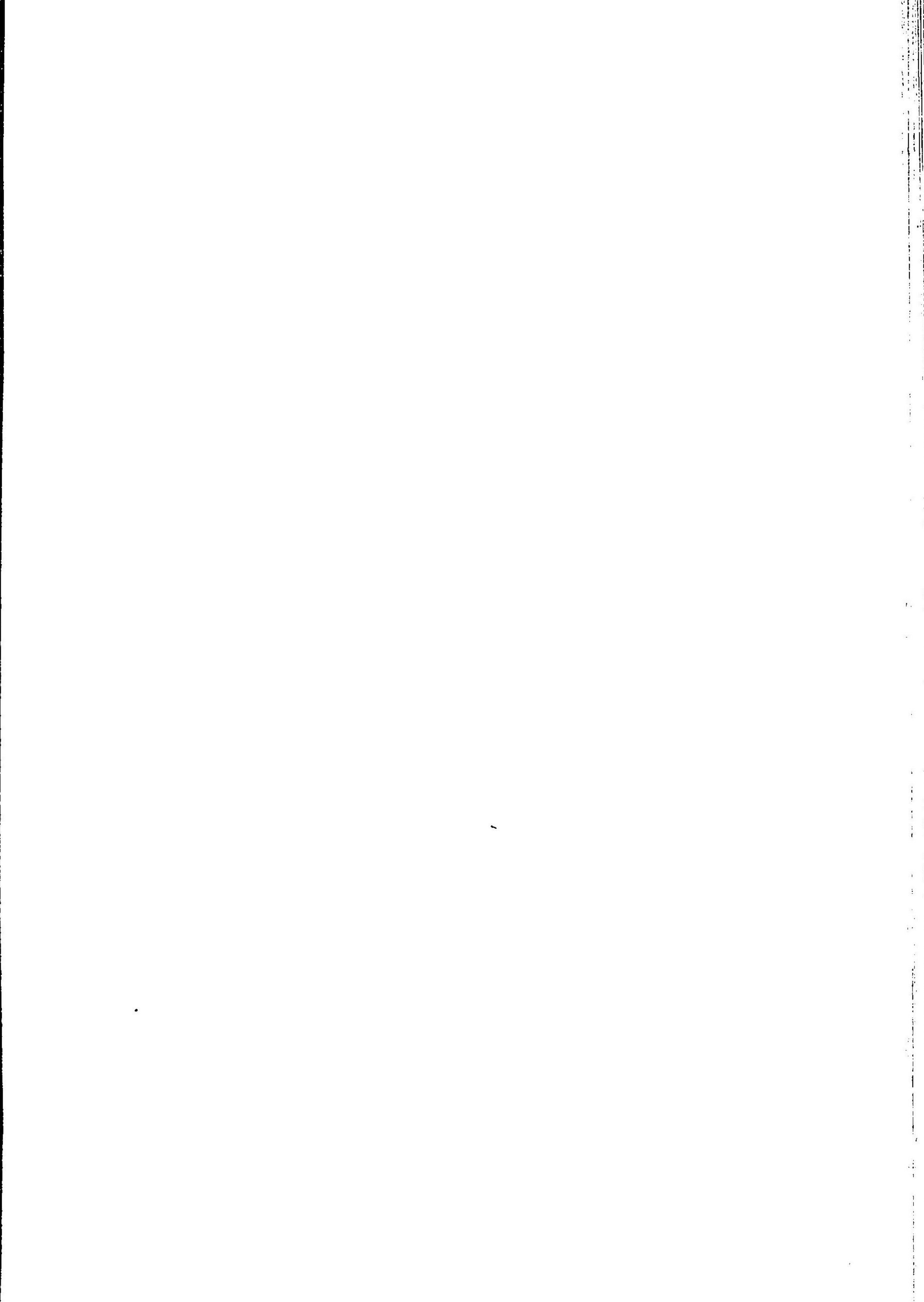
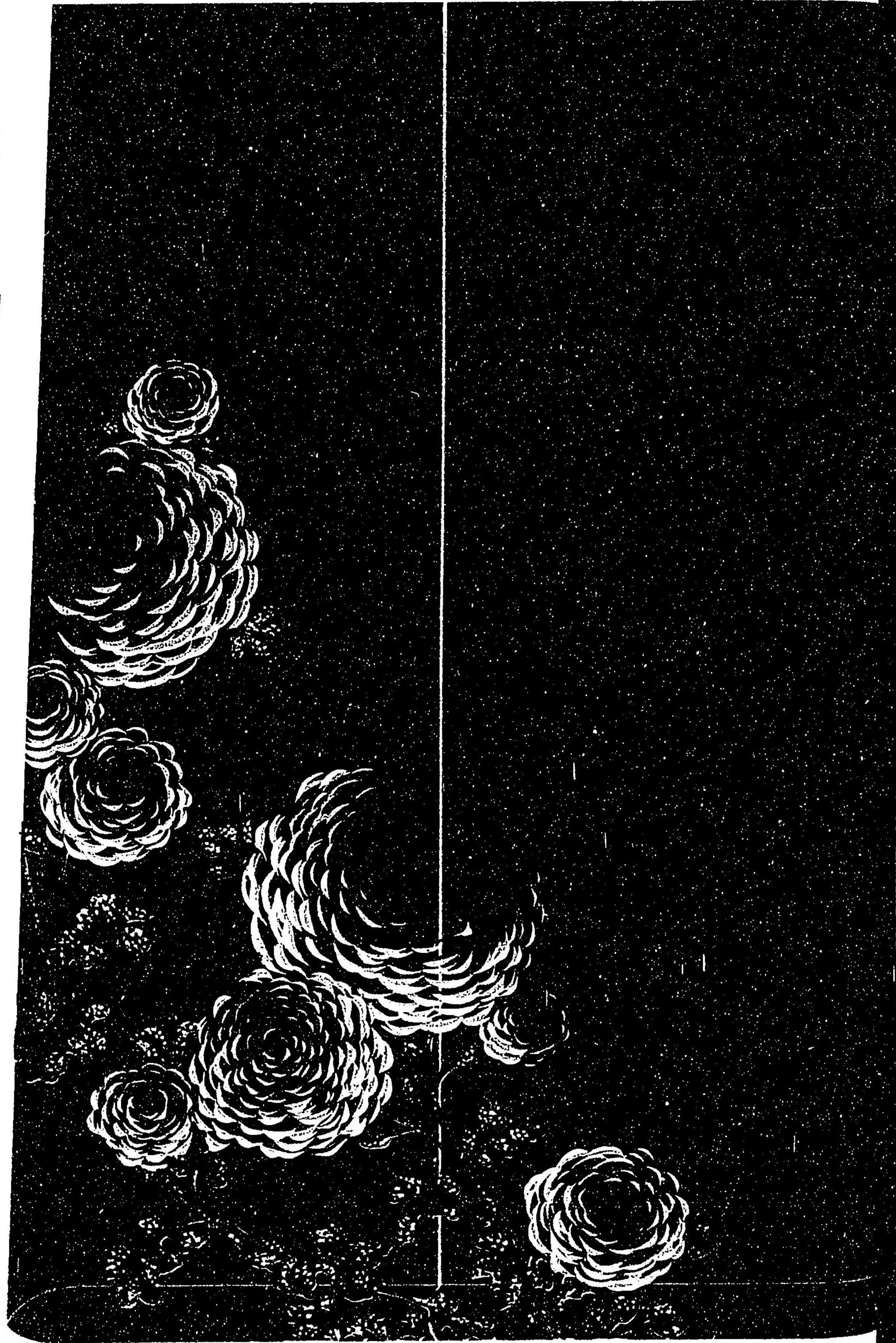
第三拾七 田舎二桐

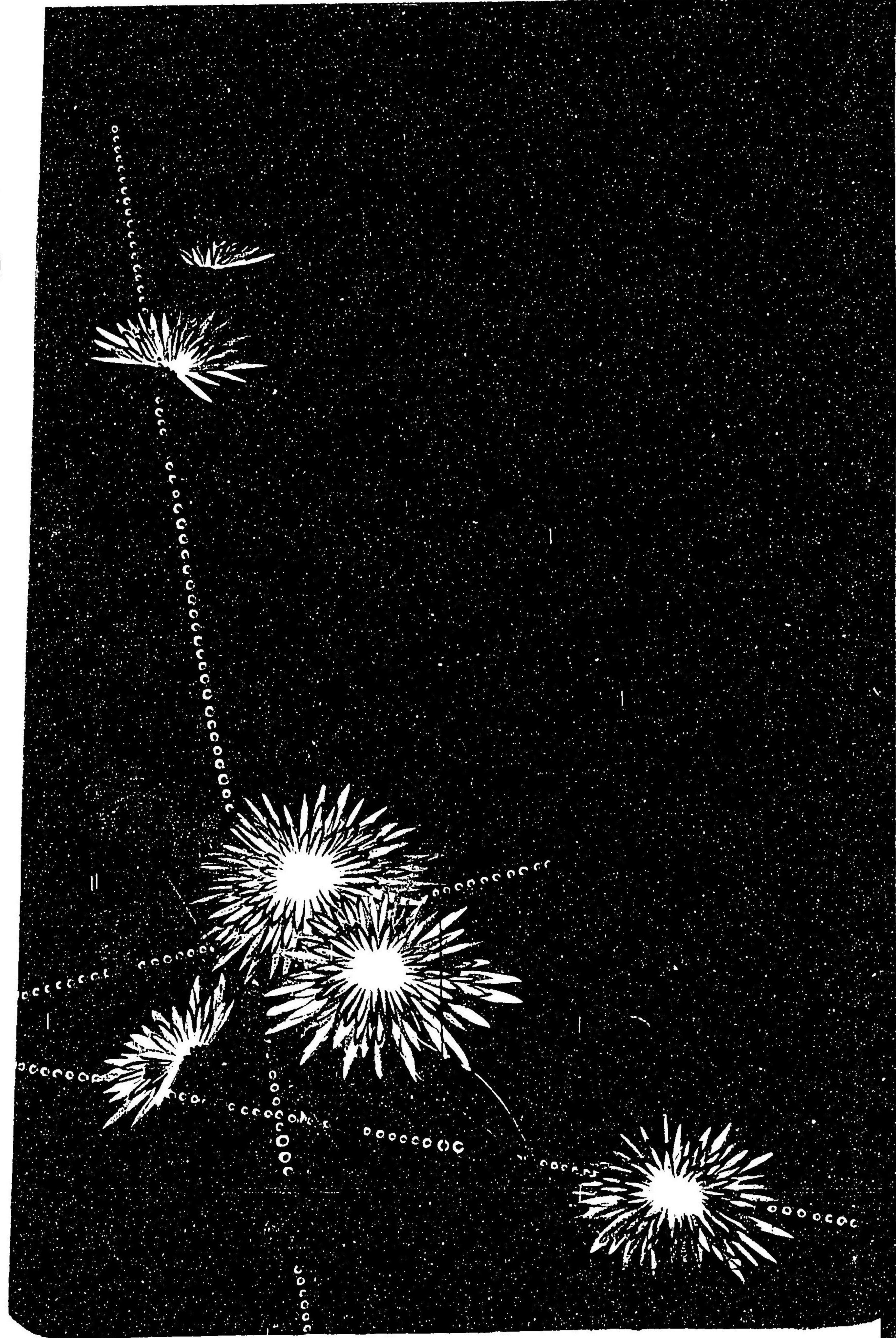


第三拾八節

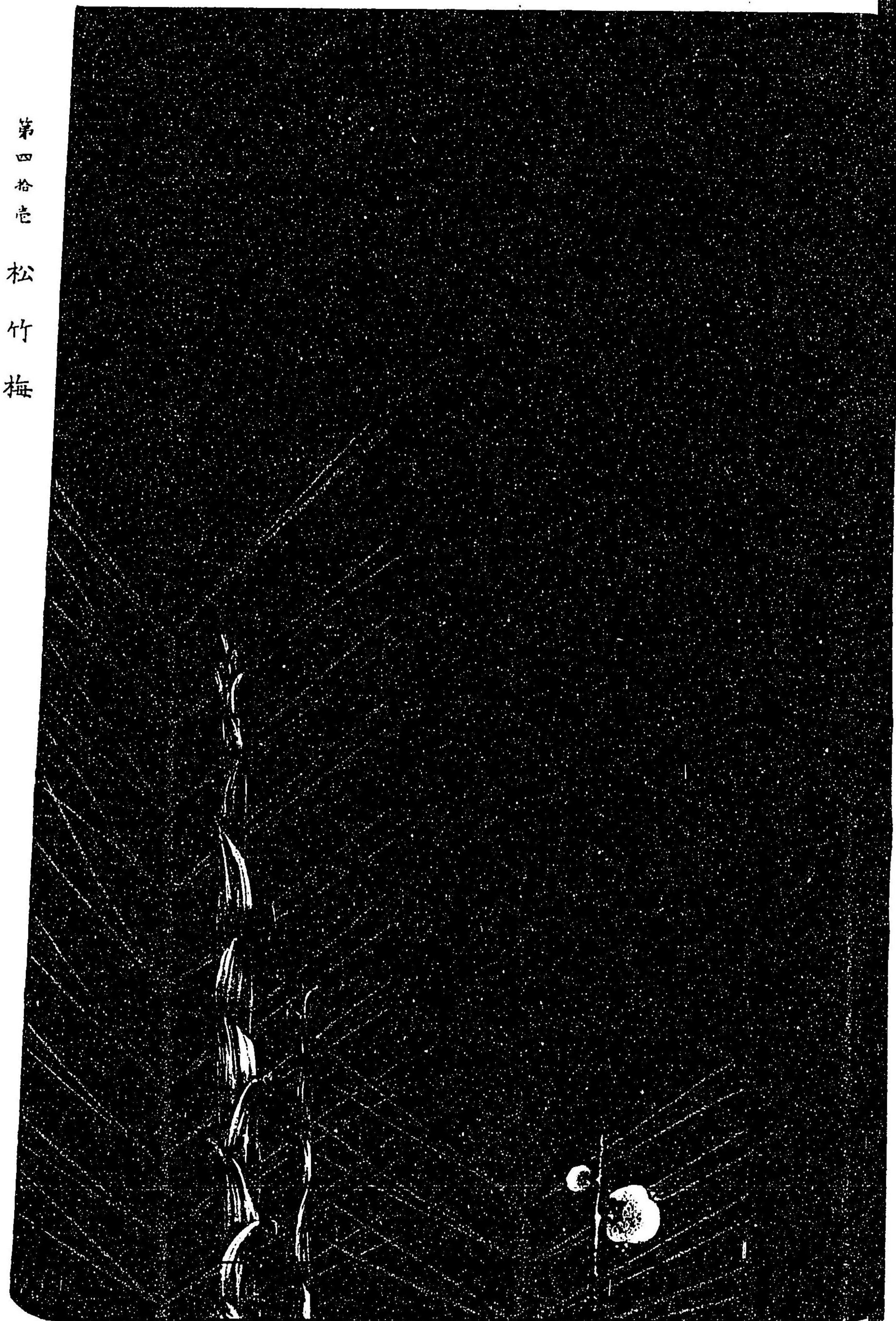
芙蓉：萱



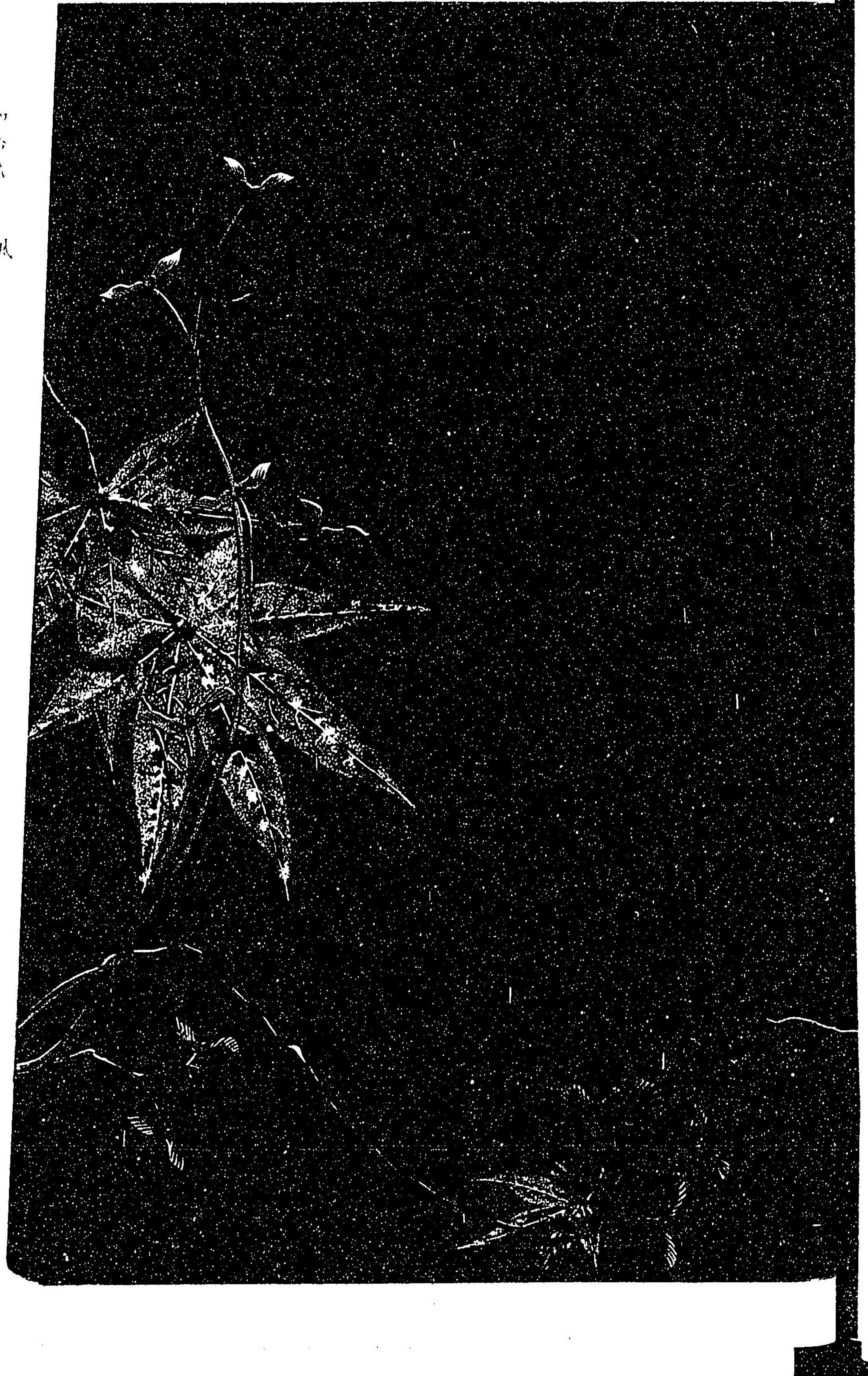




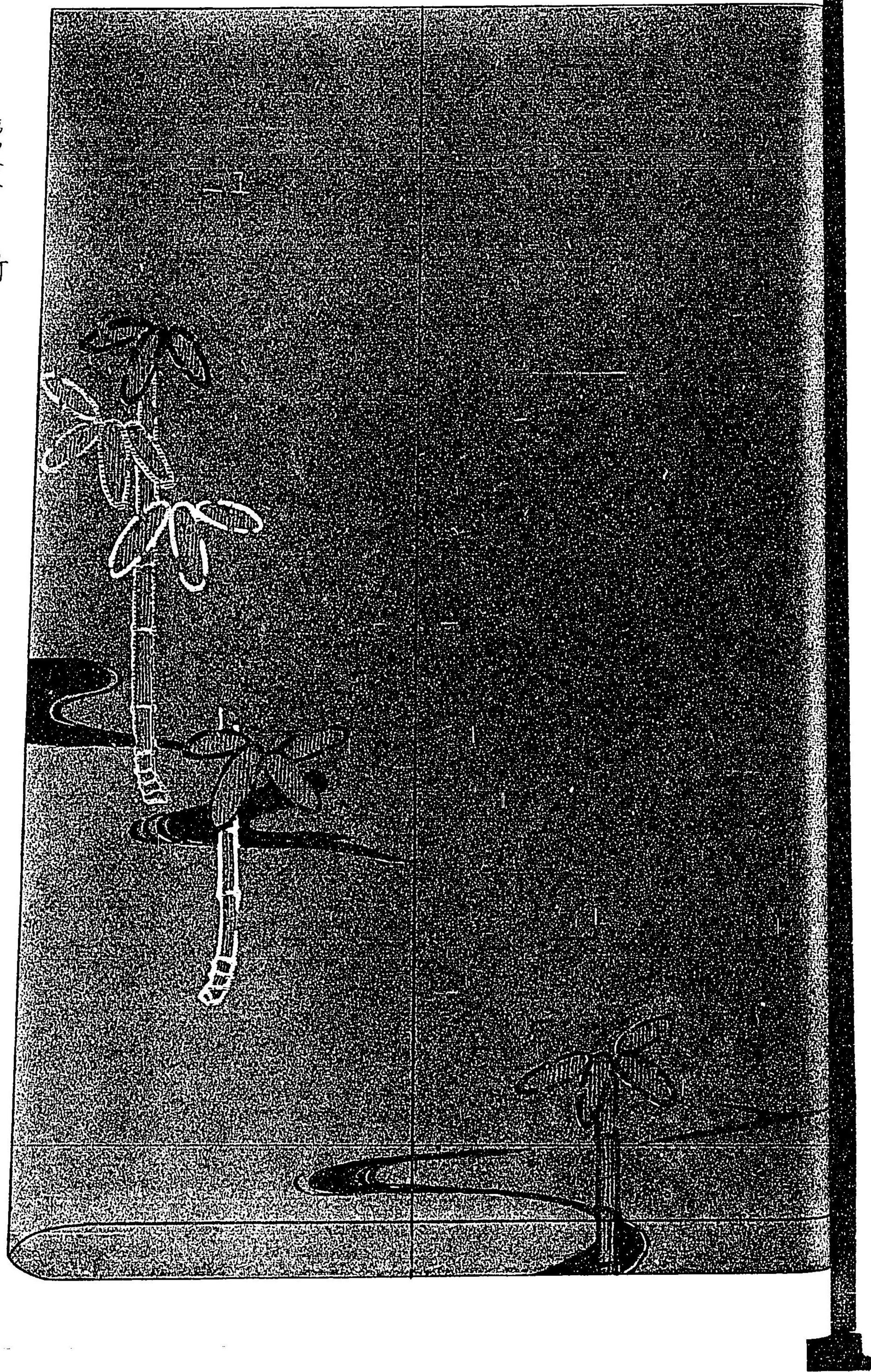
第四拾壹
松竹梅



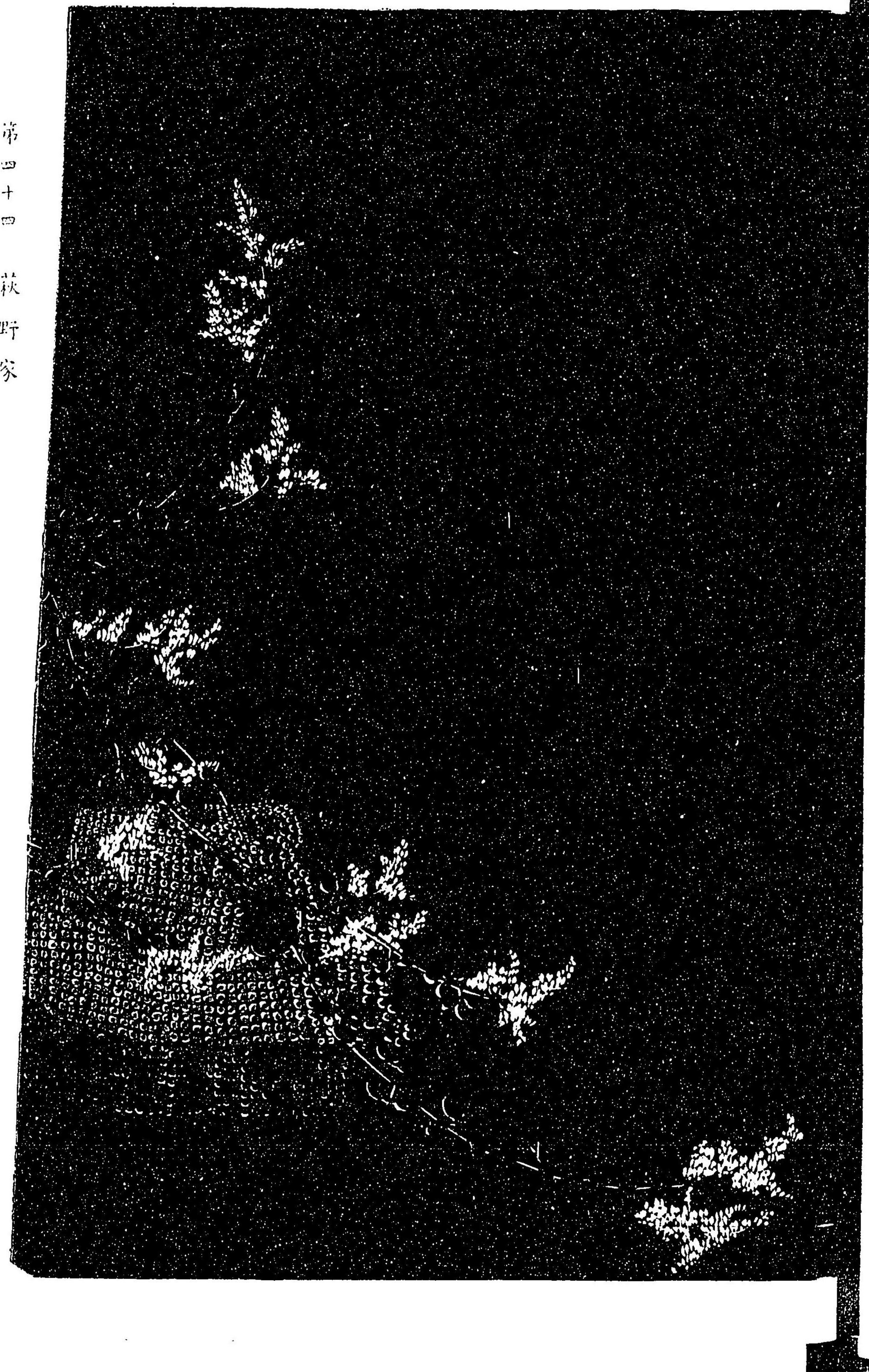
四
册
成
册



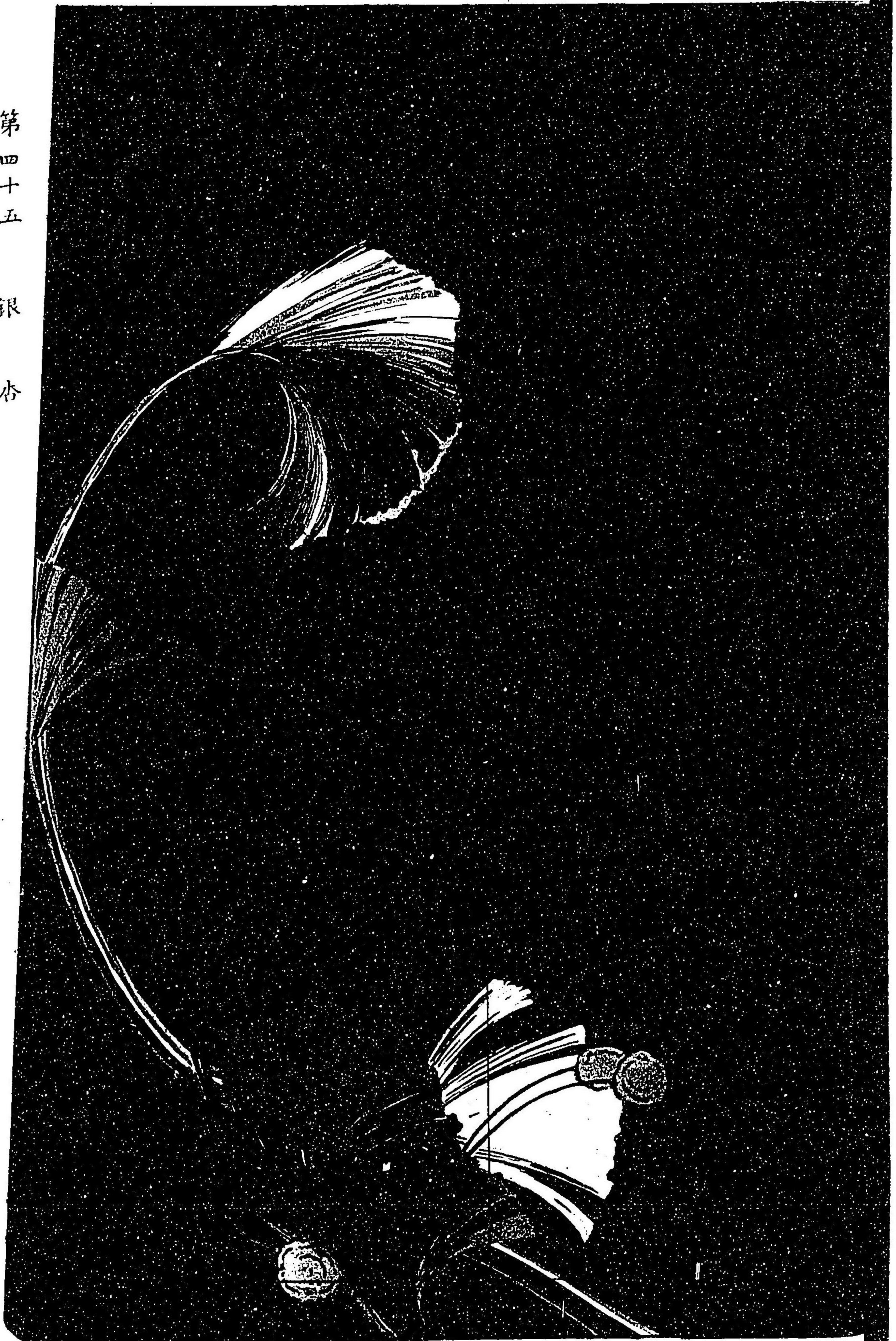
第四拾五
竹



第四十四 秋野家

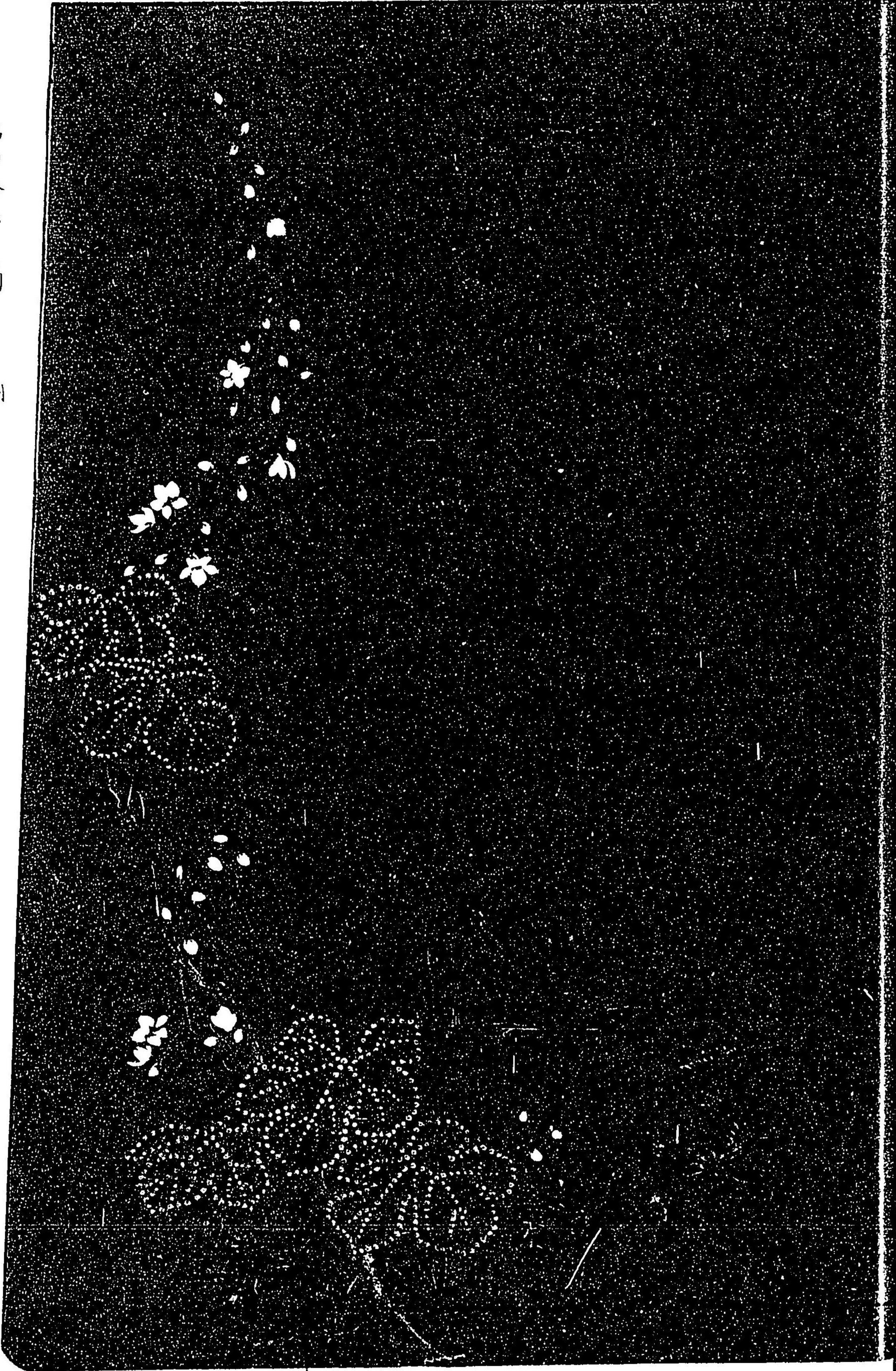


第四十五 銀 水

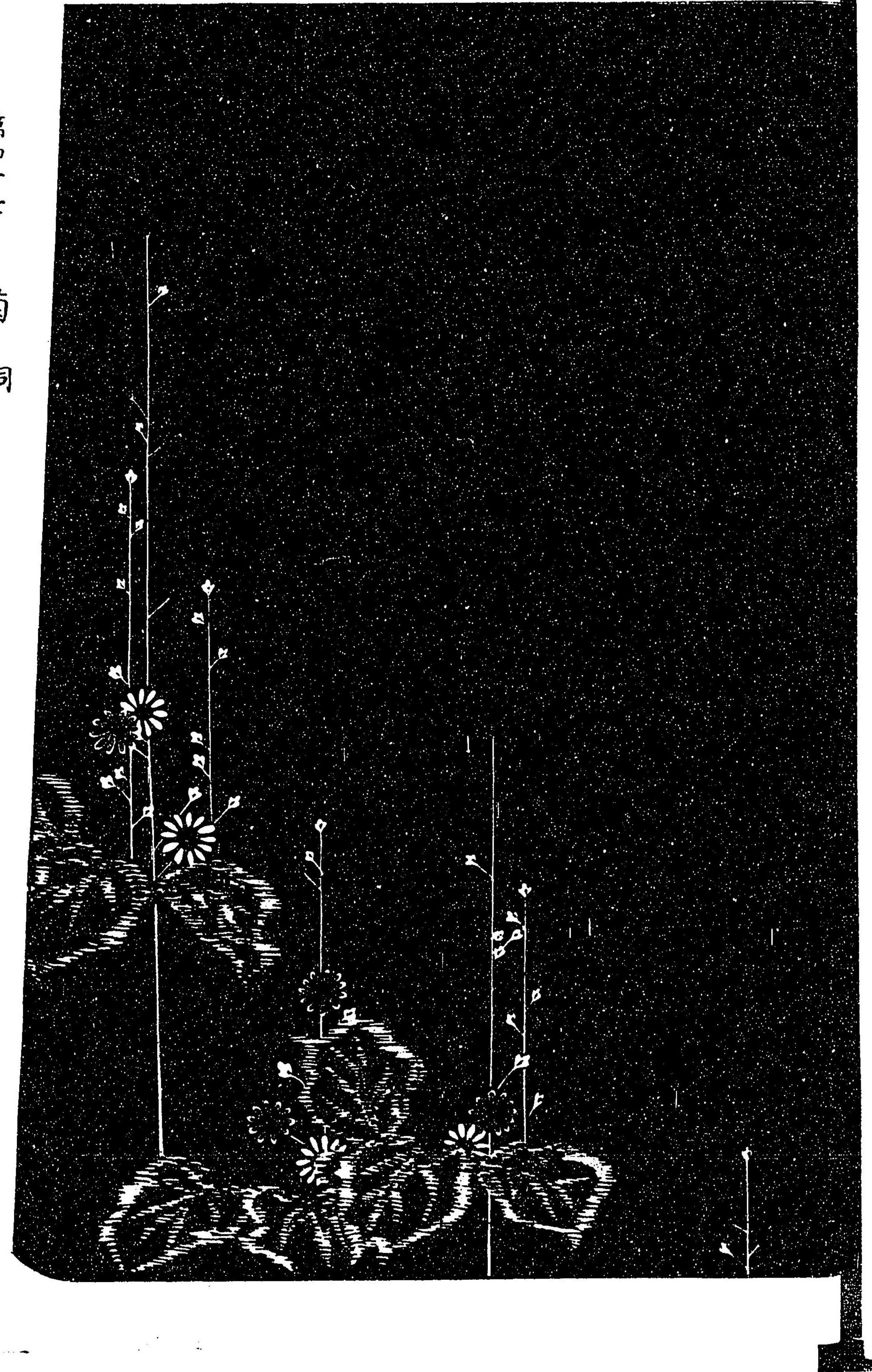


第四拾六 菊

桐

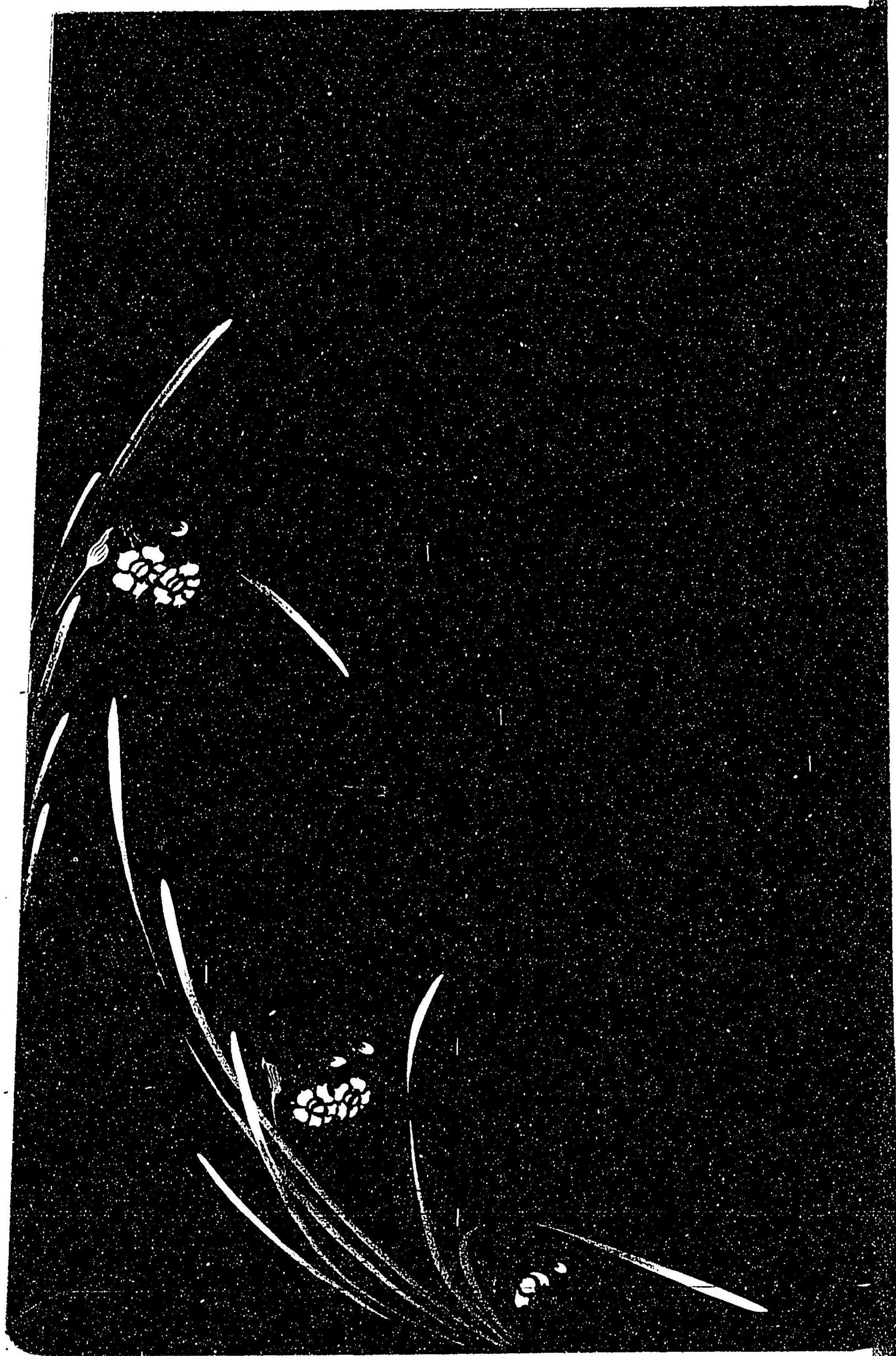


第四十七
菊
桐

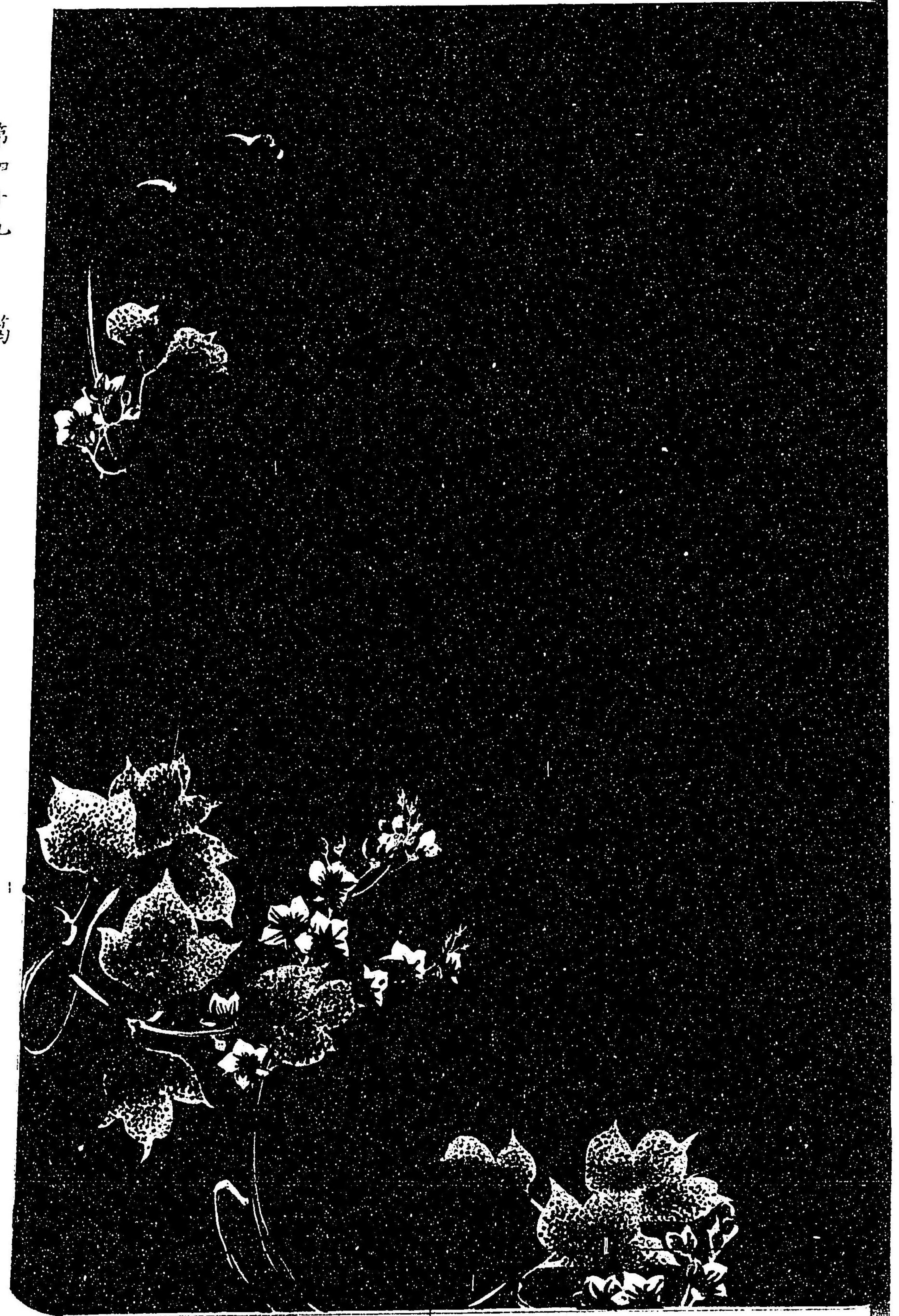


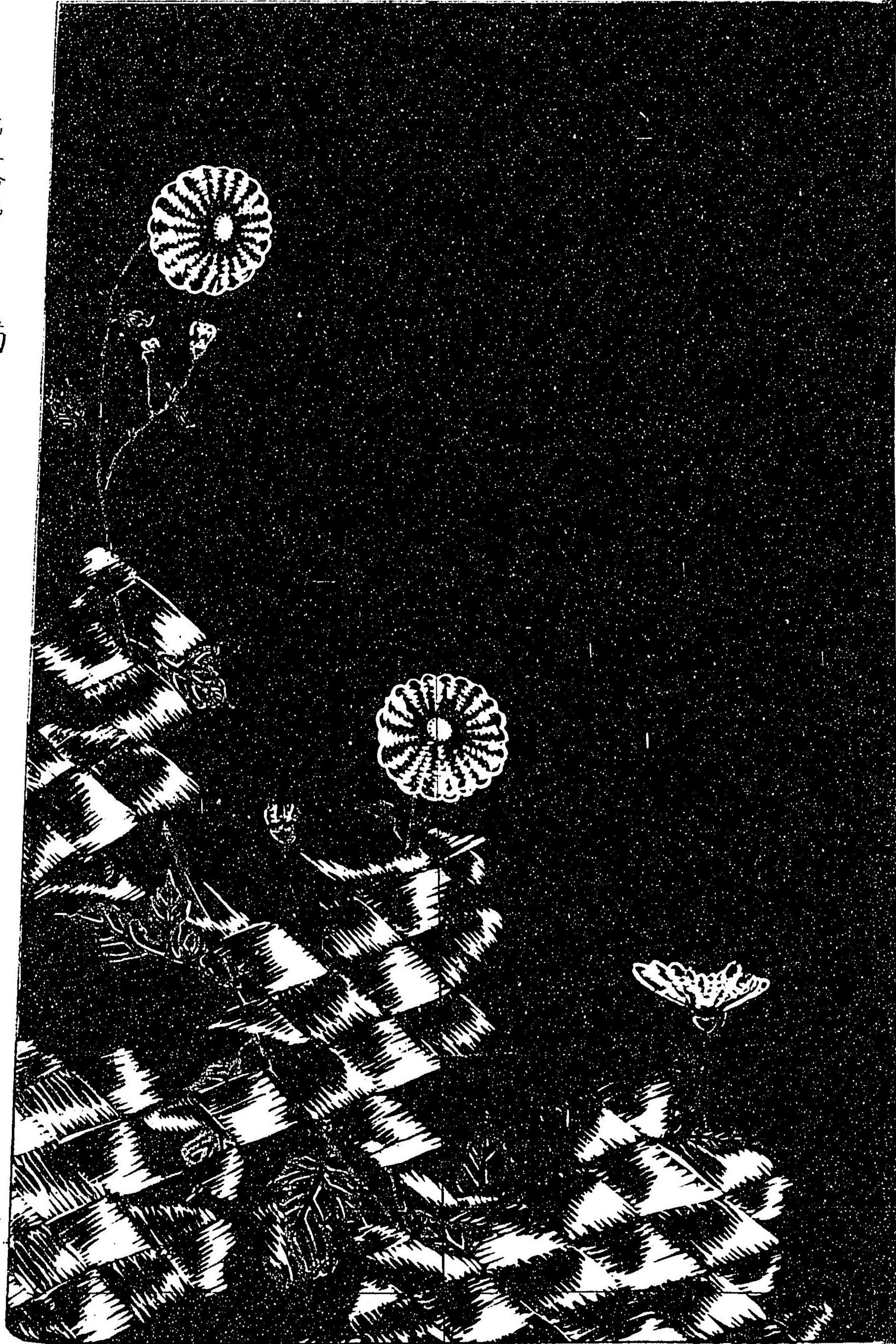
第四拾八

水仙



第四十九
葛





明治四拾貳年九月壹日印刷
明治四拾貳年九月拾日發行

定價金五圓

著作權
所有

編輯者

京都市下京區富小路三條南十六番戶

伊東次助

美志峰染意匠部

長電琴武九四番
振替口座六三六

印刷者

京都市上京區寺町通二條南十九番戶

本田次郎

發行所

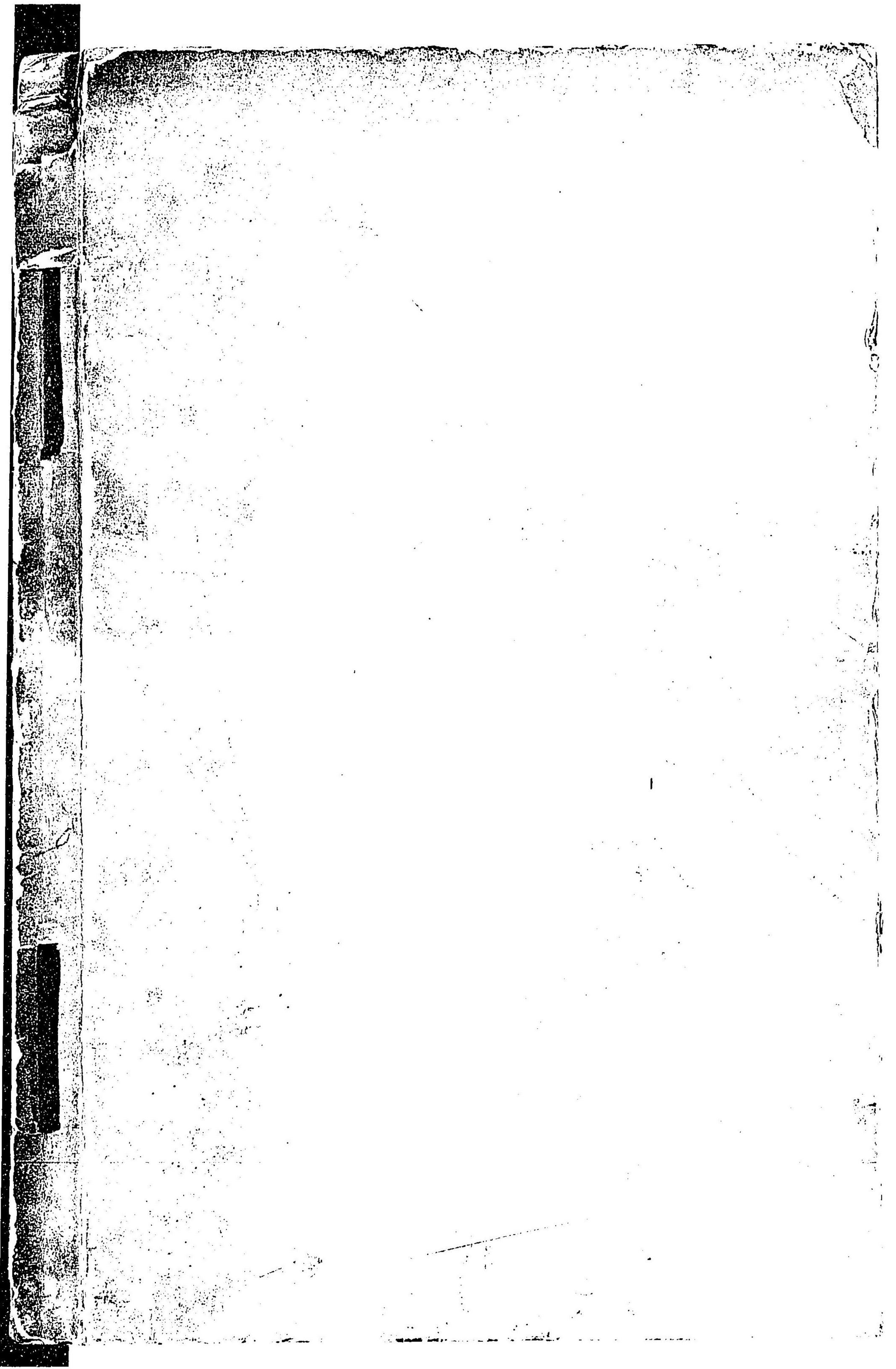
京都市寺町二條南

艸堂

長電二百九十番
振替口座二五八

409

14



明ぼの

072271-000-1

409-14

明ぼの

伊東 次助 / 編

M42

CEG-0006

